

電動丸 1000SP

取扱説明書

このたびは、シマノ電動丸1000SPをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、リール同様大切に保存していただきますようお願い申し上げます。

特長と機能	2	棚または底の水深をメモリーする方法	37
各部の名称	4	棚タイマーについて	39
メインスイッチとコントロールレバーについて	6	簡単操作大画面モード	40
電源とコードについて	7	2通りの棚の取り方・上からモードと下からモード	41
糸を巻く前の基本事項	8	上からモードの実釣編	42
糸巻学習の準備	11	下からモードの実釣編	43
学習方法 1. PE3号400m/4号300m/5号200mを巻かれる場合	14	2通りの巻き上げ方・楽釣モードと速度一定モード	44
学習方法 2. 10メートルごとのマーカのある糸を巻かれる場合	17	さそい学習	50
学習方法 3. ナイロンラインなどマーカのない糸を巻かれる場合	20	さそいの再現方法	53
学習方法 4. PEライン4号200mを巻かれる場合		お取り扱い上の注意	56
5. それ以外の組み合わせを巻かれる場合		セーフティ機能 / 仕様	58
手順について	23	製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内	59
色々なテクニック	28	故障かな?と思われたときは	60
0 (ゼロ) セットの設定	30	安全上のご注意	62
高切れの補正	32	サービスネット	63
船べり自動停止について	34		
	35		

特長と機能



リールが操作方法を説明する...
**フィッシングナビゲーション
ディスプレイ。**

P4参照



どの角度でもディスプレイがぴたりと止まる...
くるピタ。

P4参照



2通りの画面表示を選択できる...
簡単操作大画面モード。

P40参照



レバー操作で巻き上げ速度と楽釣設定値をらくらく調整...
コントロールレバー。

好みに応じて15段階の調整ができます。

P6参照



2種類の巻き上げ方法を選択できる...
**「楽釣モード」「速度一定モード」
切り替え。**

P44～49参照

巻き上げ速度が変化する「楽釣モード」と、従来の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。



チョイでチョイ巻き、チョチョイで連続巻き上げの...
ダブルクリック操作スイッチ。

P6参照

くり返しのさそい上げにワンタッチ操作が可能になります。
ボンピングへの応用にも威力を発揮します。



スピーディーに巻き上げる...

カラ巻きHiスピード。

P6/31参照

シカケのカラ巻きを高速で行ない、手返しやポイントの移動などで威力を発揮します。



インポート済みのラインデータの使用でさらに便利に...
指定系学習 - 6社対応。

P14～16参照



プログラマ不要の新SLS方式...

SLS II (シマノ・ラインプログラム・システム2) 搭載。

より正確な棚取りが可能です。

P14～27参照



より速くシカケを落とす...

糸送り機能。

P30参照



より正確に何回でも狙った水深にシカケを落とす...
0 (ゼロ) セット。  P32 ~ 33参照
シカケが水面にあるときに0メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。



高切れをワンタッチで修正する...
高切れ補正。  P34参照
高切れした場合は、再度シカケを結びシカケを水面に合わせて0セットボタンを押してください。カウンターが修正されます。



竿を立てたときにシカケが手元に戻ってくる...
船べり自動停止。  P35 ~ 36参照
船べり停止位置が自動的に設定されますから、船べり停止後、竿を立てるだけでシカケが手元に戻ります。



水深をアラームで知らせる...
棚メモ・オート棚メモ。  P37 ~ 38参照
棚または底の水深をメモリーすれば、次回そこにシカケがくるとアラームが鳴ります。



シカケが棚で停止している時間を表示...
棚タイマー。  P39参照



カウンター表示を選択できる...
「上からモード」「下からモード」切り替え。  P41 ~ 43参照
釣場、釣り方、対象魚など場合にに応じて上(水面)から・下(底)からの水深表示を切り替えることができます。



さらに磨きのかかった...
ハイパワーを実現。



あなたの釣技をリールが学習する...
テクニックマスター。  P50 ~ 55参照
釣人の学習させた「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスター(TM)。モータのON/OFFによる入力、手巻操作による入力とも、マイコンによるファジー制御で釣人の感性に忠実な「さそい動作」をリールがそのまま再現します。また、操作を覚える必要はなく、ディスプレイの説明にそって操作をすれば簡単にマスターできます。

各部の名称

フィッシングナビゲーションディスプレイ

ディスプレイはどの角度でもぴたりと止まります。

電源を入るとオープニング画面の後、左図のように表示されます。

開閉時に、本体とディスプレイの間に指をはさまないように注意してください。

ディスプレイを
開けた場合

楽/速スイッチ

《メニュー上下セレクトスイッチ》

押すごとに楽釣モード・速度一定モードが切り替わります。

メニュー画面での上下セレクトスイッチとなります。

メモ/0(ゼロ)セットスイッチ

《メニュー左右セレクトスイッチ》

上からモードの時、現在の水深をメモリーします。(6.1m以上から)

下からモードの時には底取り後

押すと同時に現在の水深が0.0になり、底からのカウントになります。

0セットする時は3秒以上押してください。シカケを水面に合わせて0セットしてください。

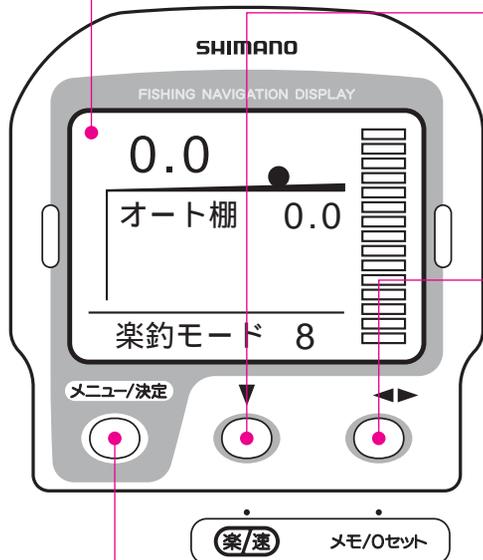
メニュー画面での左右セレクトスイッチとなります。

電源コネクター

4号200m下巻きライン

ラインホルダー

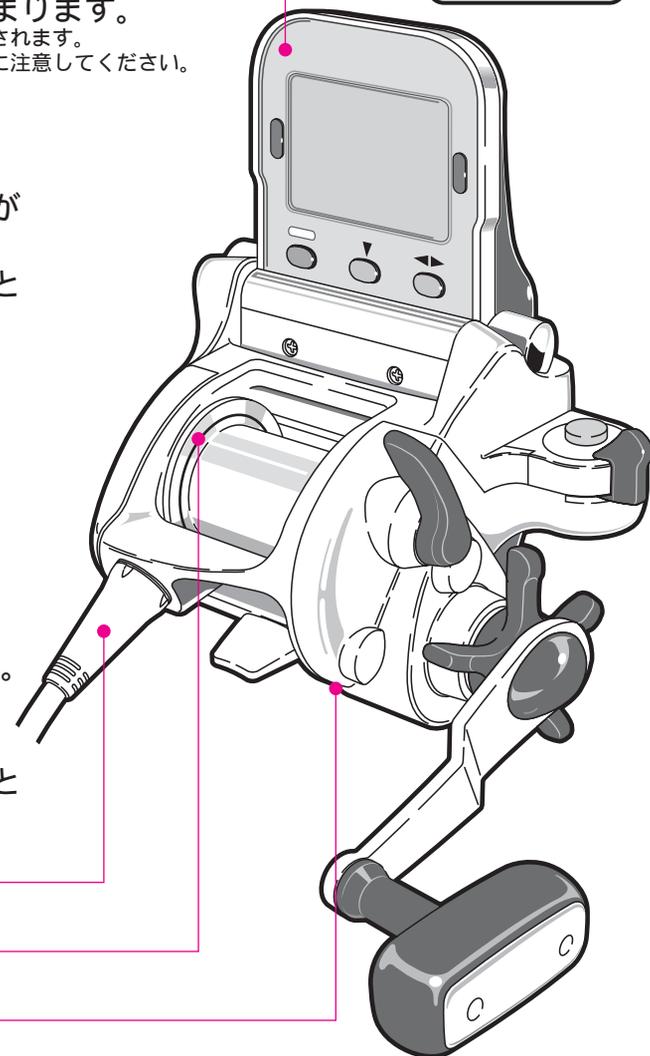
糸を止めておくものです。



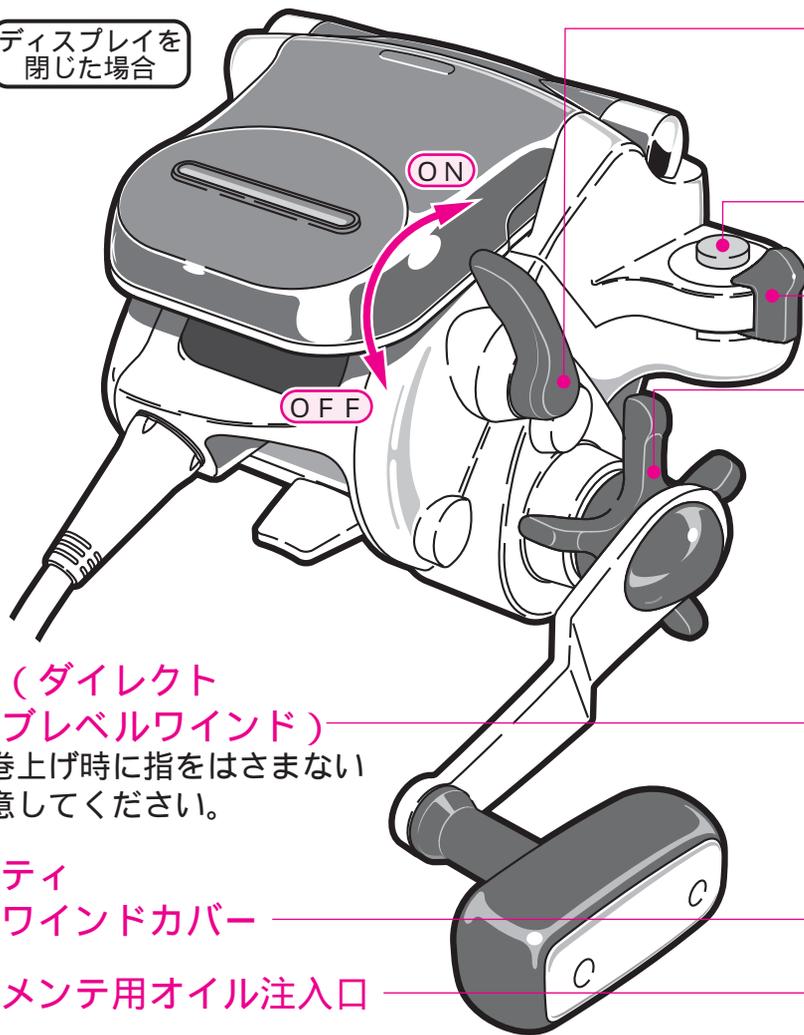
メニュー/決定スイッチ

メニュー画面を呼び出します。

メニュー画面の時は、メニューの決定を行います。



ディスプレイを
閉じた場合



クラッチ

ハンドル正転または手で戻すとONになります。

ON : シカケの巻き上げ

OFF : スプールをフリーにしてシカケをおろします。

メインスイッチ

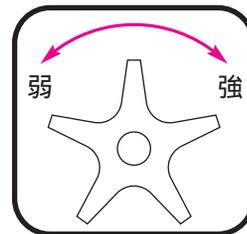
くわしくは次ページをご覧ください。

コントロールレバー

くわしくは次ページをご覧ください。

スタードラグ

魚が強く引いた時、ハリス切れをおこさないように糸を送り出す力を調整します



DDL (ダイレクト ドライブレベルwind)

電動巻上げ時に指をはさまないように注意してください。

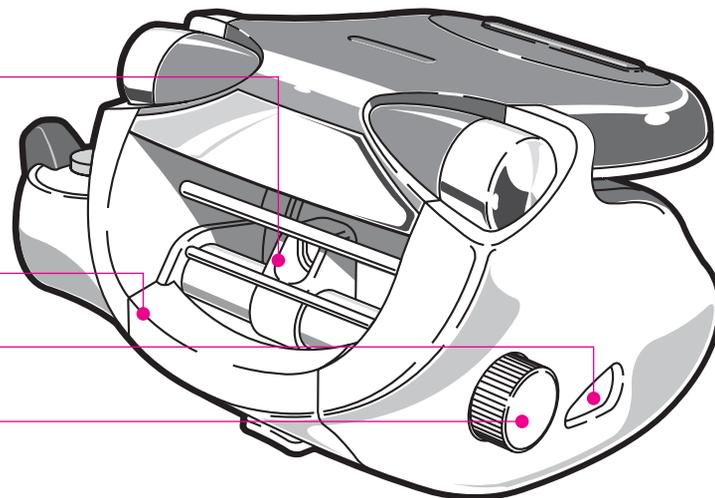
セーフティ

レベルwindカバー

洗ってメンテ用オイル注入口

スプールコントロールツマミ

スプールの回転にブレーキをかけてシカケをおろす時のバックラッシュを防止します



メインスイッチとコントロールレバーについて

メインスイッチ（ダブルクリック操作スイッチ）

チョイでチョイ巻き・チョイチョイで連続巻き上げが可能です。

2通りの巻き上げ方法から、お好みの方法を選べます。

必要に応じて、電動巻き上げがオフの時

メニュー画面を呼び出し、**[巻上]メニュー**より

下記のどちらかを選択してください。

出荷時は下記の**[連続]**が選択されています。

メニュー画面の操作方法は9～10ページ「メニュー画面の基本的な操作」を参照してください。

いずれの場合も巻き上げ速度はコントロールレバーで調節します。

[連続]

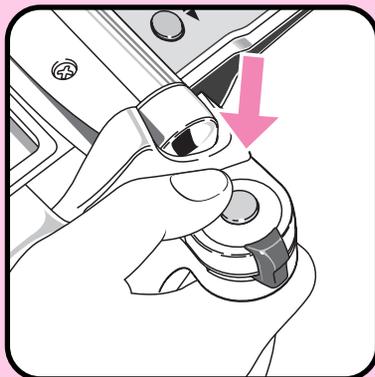
1回押すと、連続巻き上げを行います。

停止はメインスイッチをもう一度押します。

[チョイ巻]（ダブルクリック操作）

メインスイッチを1回押すと、押している間だけ電動巻き上げを行ない、離すと停止します。続けて2回押すと（ダブルクリック操作）、電動連続巻き上げを開始します。停止はメインスイッチを1回押します。

ただし船べり停止以後は、メインスイッチを押している間のみ巻き上げます。（簡単モードが選択されている場合には連続巻き上げのみになります。）



コントロールレバー

巻き上げ速度と楽釣設定値を調整できます。

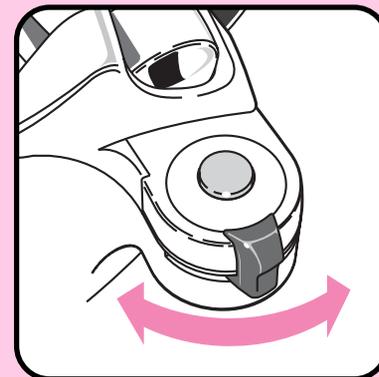
【楽釣モード】の時...

テンションの数値の設定を行います。（15段階）

【速度一定モード】の時...

巻き上げ速度を目的・好みによって15段階に選べます。

最高速185m/分、130m/分から9m/分まで14変速の合計15変速の調整が可能です。



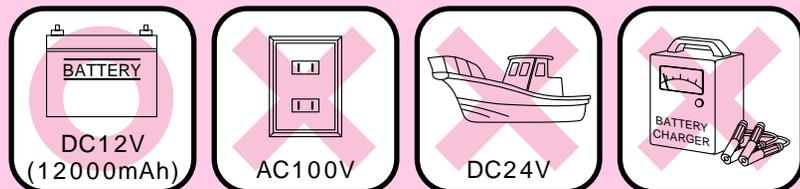
電源とコードについて

1 お取り扱い上の注意

電源について

電源は、直流（DC）12Vです。（容量は12,000mAh以上のもののご使用をおすすめします。）指定外の電源（たとえば家庭用の交流100V、船装備の直流24Vなど）では使用できません。

バッテリーチャージャーなどは、絶対に使わないでください。



船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流（DC）12Vであること（船のバッテリーをご使用になる場合は12Vを直接とるのではなくDC-DCコンバータにより24Vから12Vに変換されたものに限ります。）をご確認ください。また、端子がサビしているとリールが正常に作動しない場合がありますので、サビを取り除いてご使用ください。

十分に充電したバッテリーをご使用ください。

釣行後、バッテリーは長持ちさせるためすぐに充電してから保管してください。そして再度、釣行前に充電してご使用ください。

バッテリーは長期間使用されますと、次第に、充電できる容量が少なくなります。その場合は、バッテリーのみ新しいものをお求めください。

コードについて

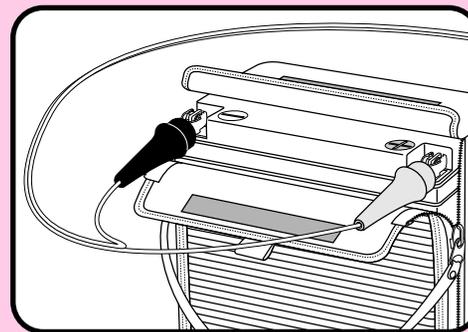
電源との接続は、必ず付属のシマノ純正電源コードを用いてください。

ご注意：純正以外のコードを使用されると、リールが正常に作動しない場合があります。また、電源コードは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると、故障の原因となります。

2 バッテリーとの接続方法

1 バッテリーに付属の電源コードを接続してください。

下図のように、赤クリップを（+）側に、黒クリップを（-）側につないでください。



糸を巻く前の基本事項

本文の説明中に次のようなマークが出てきた場合は...



注意：

本文の説明中に出てくるカウンター内の数値・モード・反転表示などは例として表示している場合があります。全く同じ表示になるわけではありません。

このリールにはすでに下記の標準設定がされています。

連続巻き上げ

メインスイッチを1回押すと連続巻き上げを行います。
もう一度押すと巻き上げを停止します。(くわしくは6ページ参照)

糸送り機能作動

モーターの回転の反動でスプールが糸の出る方向に回り、より早くシカケを落とします。
(くわしくは30ページ参照)

船べり自動停止

竿を立てたときにシカケが手元にくるようにコンピュータが判断し、船べりで巻き上げが自動的に停止します。(くわしくは35～36ページ参照)

上からモード

水面から棚を取る場合のモードです。
底から棚をとる場合は下からモードに切り替えてください。(くわしくは41ページ参照)

楽釣モード

自動的に速度が変化し、糸のたるみや引っ張り合いを避けて巻き上げるモードです。活きエサを使用される場合などは速度一定モードに切り替えてください。(くわしくは44～49ページ参照)

下記の糸を巻かれる場合、すでにこのリールにラインデータがインプットされているため、さらに便利です!(くわしくは14～16ページ参照)

糸巻量(号-m)	メーカー名(2002年2月現在でのデータ)
3-400・4-300 5-200	シマノ(DURA-PE)・ヨツアミ(スーパーダイニーマ)・サンライン(DEEP ONE)・ユニチカ(ユニベンチャー1)・ゴーセン(テクミーハイブリッド)・ダイワ(棚センサブライト)

メニュー画面から共通の操作で機能の設定・変更ができます。

必要に応じて下記の操作方法を参照してください。メニュー画面で設定可能な機能は次のページをご覧ください。
(危険防止のために、モーターOFF時のみメニュー画面に入ることができます。)

メニュー画面の基本的な操作



- 1** メニュー/決定スイッチを押して、メニュー画面を呼び出します。

表示は図のようになります。

反転表示は現在実行されているか、前回選択されたメニューです。

- 2** ▼スイッチで▶カーソルを下へ移動させ、目的の機能がある行に合わせます。

- 3** ◀▶スイッチで▶カーソルがある行の反転部分を左右に移動させ、目的の機能を選択(反転)します。

一番上の行は左右の移動・反転を行えません。

次ページにつづく



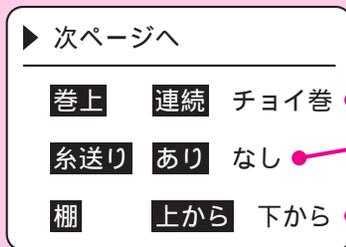
4 メニュー/決定スイッチを押して選択を決定してください。

例図の場合は[下から]が決定され、下からモードに変更されたこととなります。

変更が行われた場合、また10秒間スイッチ操作が行われなかった場合、画面は標準に戻ります。

メニュー画面で設定可能な機能一覧

《1ページ目》

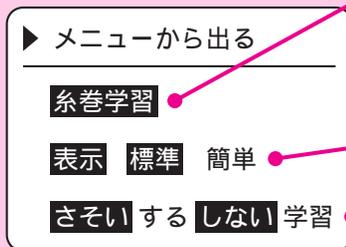


[巻上]...巻き上げ方法を[連続]・[チョイ巻]から選択します。
(6ページ参照)

[系送]...系送り機能の[あり]・[なし]を選択します。(30ページ参照)

[棚]...棚の取り方を[上から]・[下から]より選択します。(41ページ参照)

《2ページ目》



[系巻学習]...使用する糸をリールにインプットします。
(11~27ページ参照)

[表示]...画面表示を[標準]・[簡単]から選択します。(40ページ参照)

[さそい]...さそいモードの[する]・[しない]の選択、または[学習]でさそい動作をインプットします。

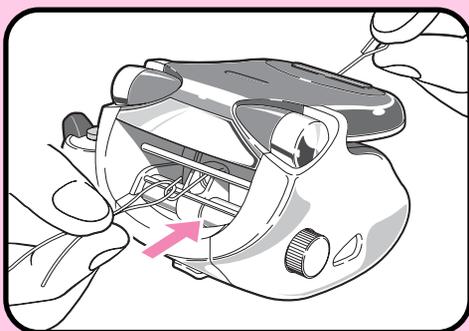
(50~55ページ参照)

糸巻学習の準備

糸をセットします。

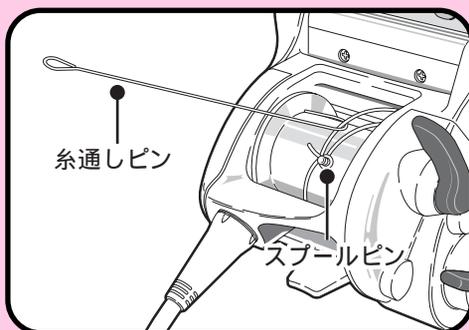
1 糸をレベルワインドに通します。

糸を通すときは、付属の糸通しピンを使用することをおすすめします。



2 スプールピンに糸を結んでください。

スプールピンの抜け防止のため、スプールにラインを1周させてスプールピンに引っかけて止めるようにしてください。。



メニュー画面で[糸巻学習]を選択します。



1 クラッチレバーをONにしてください。

そして、電源の接続を確認してください。

電源を接続すると、図のようなオープニング画面の後、標準画面が表示されます。

次ページにつづく



- 2** 標準画面は図のようになります。



- 3** メニュー/決定スイッチを押して、メニュー画面を呼び出します。
- 表示は図のようになります。
- ここからの操作は9～10ページの「メニュー画面の基本的な操作」にもとづいていますので、そちらも参照して行ってください。



- 4** [糸巻学習]メニューがないため[次ページへ]行きます。
- すでに▶カーソルが合っている[次ページへ]を決定するため、そのままメニュー/決定スイッチを押します。

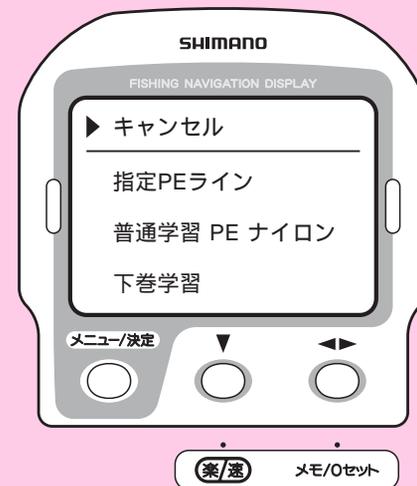
注意:カウンター内の数値・モード・反転表示などは例として表示している場合があります。全く同じ表示になるわけではありません。



- 5** 表示は図のようになります。
▼スイッチを1回押して[糸巻学習]に▶カーソルを合わせます。



- 6** すでに[糸巻学習]が反転(選択状態)になっているため、メニュー/決定スイッチを押して決定します。



- 7** [糸巻学習]のメニューが表示されます。
続いて次ページからの「学習方法」に従って、巻かれる糸に応じた学習を行ってください。

学習方法 (インプットずみのラインデータが使用できます。)



1 指定系学習 - 6社対応・シマノおよび他社メーカーのPE3号400m/4号300m/5号200mを巻かれる場合 [指定PEライン]メニュー

指定系以外の10メートルごとのマーカのある系を巻かれる場合は17～19ページをごらんください。([普通学習][PE]メニュー)
また、ナイロン糸など(メータのマーカのない系)を巻かれる場合は20～22ページをごらんください。([普通学習][ナイロン]メニュー)
下巻を行っての学習も可能です。([下巻学習]メニュー・23～27ページ参照)



1 11～13ページの操作に従って、[糸巻学習]のメニューを表示させておきます。メニューの選択は9～10ページ「メニュー画面の基本的な操作」も合わせて参照し、行ってください。

▼スイッチを1回押して[指定PEライン]の行に▶を合わせます。



2 メニュー/決定スイッチを押し、選択を決定します。表示は図のようになります。



3 ▼スイッチと◀▶スイッチを使用して、巻かれる糸巻量・メーカーを選択してください。図の例の場合は、シマノ4号300mが選ばれています。

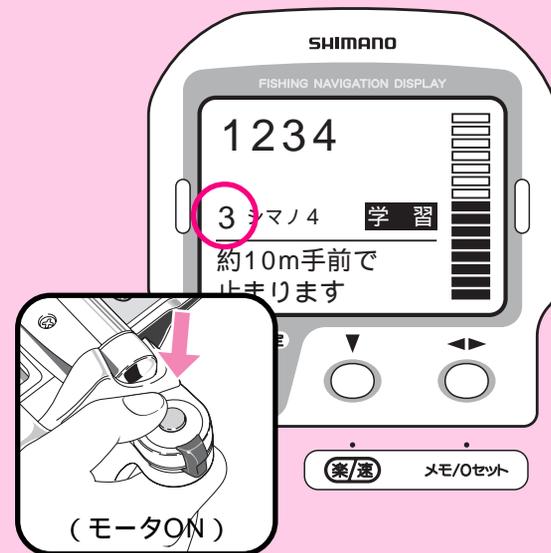
注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

選択できるラインデータ一覧

- シマノ (DURA-PE)
- ヨツアミ (スーパーダイニーマ)
- サンライン (DEEP ONE)
- ユニチカ (ユニベンチャー1)
- ゴーセン (テクミーハイブリッド)
- ダイワ (棚センサブライト)



ワンタッチ



(モータON)

シマノ以外にも上記の他社メーカーのデータが
インプットされています。

2002年2月現在でのデータです。

4 メニュー/決定スイッチを押して決定します。

表示は図のようになります。

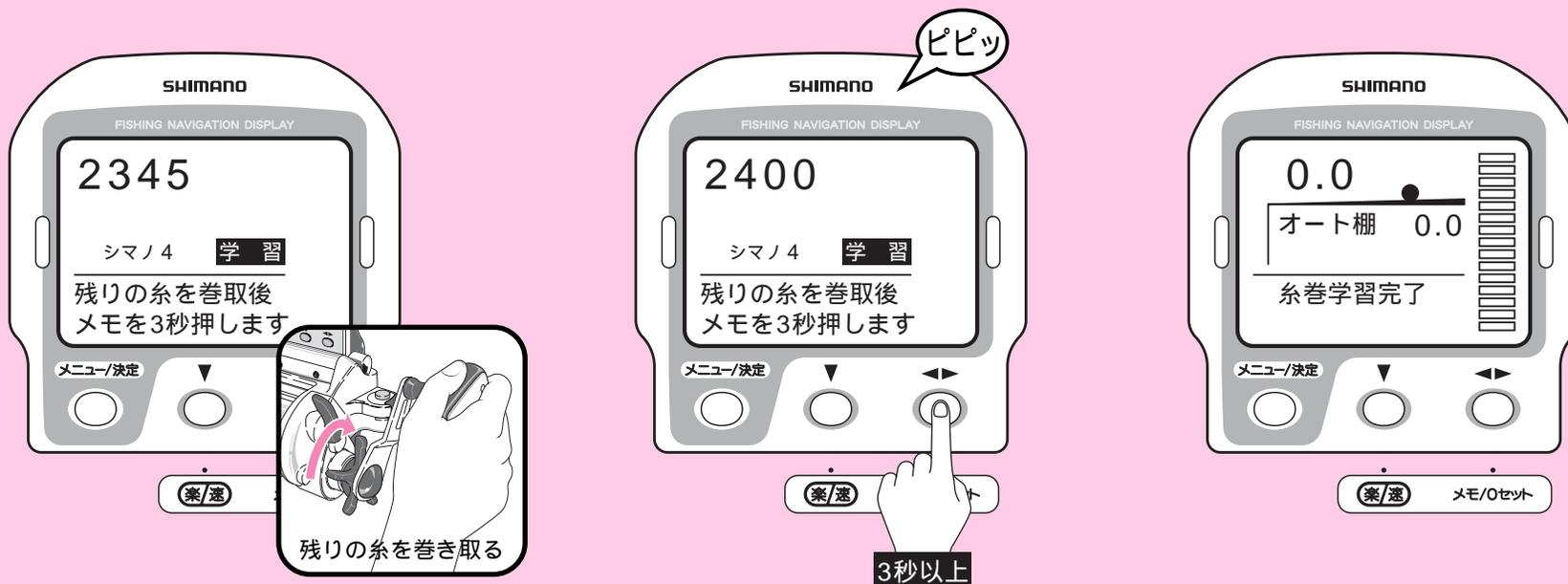
内に選択した糸の種類が表示されます。図はシマノ4号300mの場合です。

ここからは画面下段の説明に従って操作を進めます。この場合、次に3のテンションで糸を巻き取っていきます。

5 メインスイッチを押して 内のテンションが3になるように糸を巻いてください。

回転数が表示されます。リールが巻き上げている力(糸のテンション)を 内に数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽速モード時の数値とも異なります。巻き上げ速度はコントロールレバーで調節できます。

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



6 電動巻き上げは約10m手前で自動的にストップします。残りの糸を手巻きで巻いて下さい。

7 糸を完全に巻き終わったら、学習を終了するため、メモ/0セットスイッチを3秒以上押してください。

8 図のように表示された後、画面が標準に戻り学習は完了です。カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。誤差とは、学習後1投目の誤差です。

学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)



2 10メートルごとのマーカのある糸を巻かれる場合 [普通学習][PE]メニュー



1 11～13ページの操作に従って、[糸巻学習]のメニューを表示させておきます。メニューの選択は9～10ページ「メニュー画面の基本的な操作」も合わせて参照し、行ってください。

▼スイッチを2回押して[普通学習]の行に▶を合わせます。



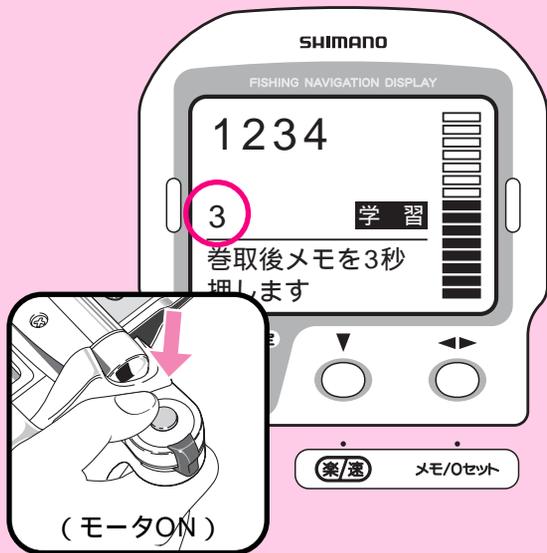
2 ◀▶スイッチで反転部分を左右に移動させ、[普通学習]の[PE]を選択(反転)します。



3 メニュー/決定スイッチを押して選択を決定します。

表示は図のようになります。ここからは画面下段の説明に従って操作を進めます。この場合、次に3のテンションで糸を巻き取っていきます。

次ページにつづく



- 4** メインスイッチを押して 内のテンションが3になるように糸を巻いてください。

回転数が表示されます。リールが巻き上げている力(糸のテンション)を 内に数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽速モード時の数値とも異なります。巻き上げ速度はコントロールレバーで調節できます。



- 5** 巻くのを止めるときは、もう一度メインスイッチを押してください。



- 6** 糸を完全に巻き終えたらメモ/Oセットスイッチを3秒以上押ししてください。

表示は図のようになります。

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



7 糸を正確に10m分引き出します。

糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカの数で確認します。

回転数が 内に表示されます。

8 学習を終了するため、メモ/0セットスイッチを3秒以上押してください。

9 図のように表示された後、画面が標準に戻り学習は完了です。

カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。

誤差とは、学習後1投目の誤差です。

10 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)



3 ナイロンラインなどマーカのない糸を巻かれる場合 [普通学習ナイロン]メニュー



- 1 11～13ページの操作に従って、[糸巻学習]のメニューを表示させておきます。メニューの選択は9～10ページ「メニュー画面の基本的な操作」も合わせて参照し、行ってください。
▼スイッチを2回押して[普通学習]の行に▶を合わせます。

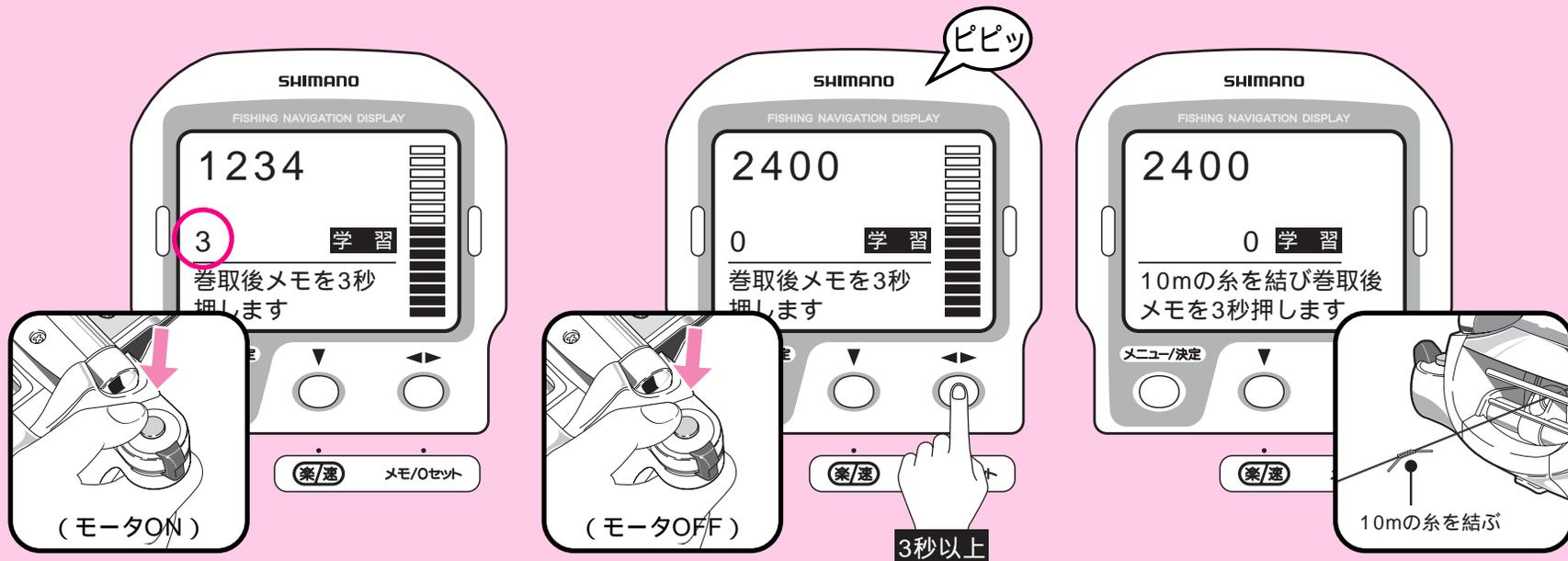


- 2 ◀▶スイッチで反転部分を左右に移動させ、[普通学習]の[ナイロン]を選択(反転)します。



- 3 メニュー/決定スイッチを押して選択を決定します。
表示は図のようになります。
ここからは画面下段の説明に従って操作を進めます。この場合、次に3のテンションで糸を巻き取っていきます。

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** メインスイッチを押して 内のテンションが3になるように糸を巻いてください。

回転数が表示されます。リールが巻き上げている力(糸のテンション)を 内に数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽速モード時の数値とも異なります。巻き上げ速度はコントロールレバーで調節できます。

- 5** 巻くのを止めるときは、もう一度メインスイッチを押してください。

糸を完全に巻き終わったら、メモ/0セットスイッチを3秒以上押してください。

- 6** 表示は図のようになります。巻き取った糸の先に長さ10mの別の糸を結びつけます。

次ページにつづく

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



7 結びつけた糸を手巻きで巻き取ります。

回転数が 内に表示されます。

8 学習を終了するため、メモ/0セットスイッチを3秒以上押してください。

9 図のように表示された後、画面が標準に戻り学習は完了です。

カウンターの数値と実際の糸の出した長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。

誤差とは、学習後1投目の誤差です。

10 結びつけた糸を引き出して、取りはずしてください。

学習方法 (下巻を行っての学習も可能です。)



4 PEライン4号200mを巻かれる場合・スプールの下巻ラインを使用 [下巻学習]メニュー

5 それ以外の組み合わせ (PEライン3号200m/3号300m) を巻かれる場合・付属ゲージを使用 [下巻学習]メニュー



3回押す

1 11～13ページの操作に従って、[糸巻学習]のメニューを表示させておきます。メニューの選択は9～10ページ「メニュー画面の基本的な操作」も合わせて参照し、行ってください。

▼スイッチを3回押して[下巻学習]の行に▶を合わせます。



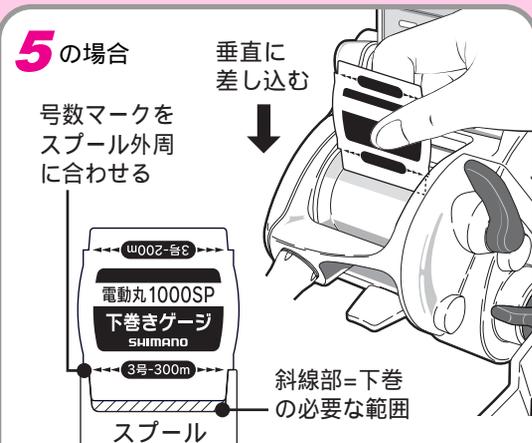
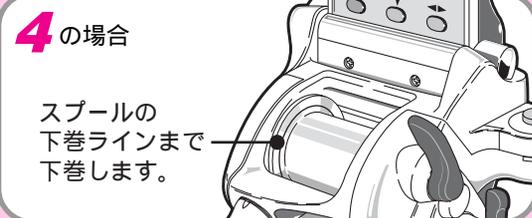
ワンタッチ

2 メニュー/決定スイッチを押して選択を決定します。

表示は図のようになります。

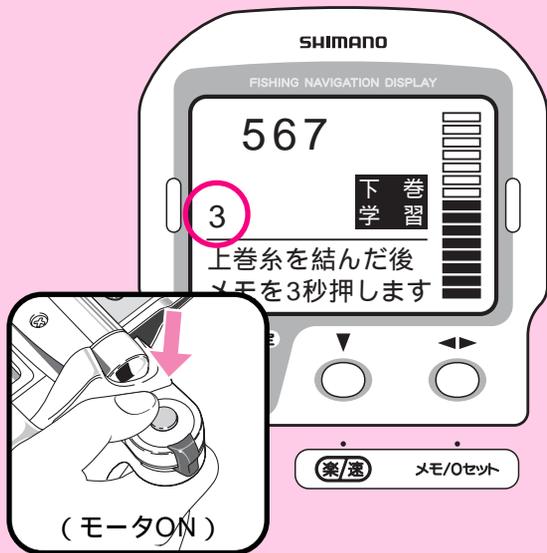
ここからは画面下段の説明に従って操作を進めます。この場合、次に3のテンションで下巻糸を巻き取っていきます。

下巻を行う量は右の要領に従ってください。



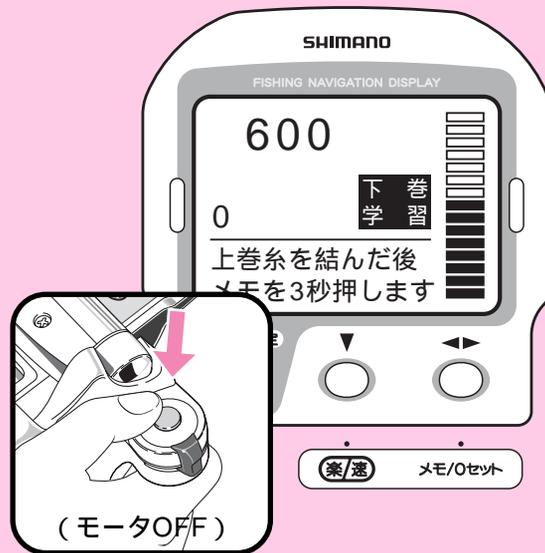
ゲージの使用法

上図のように付属のゲージをスプールに垂直に差し込み、号数マークをスプールの外周に合わせます。スプールとゲージの間にできたすき間(図の斜線部)が下巻をする範囲です。ゲージに当たるまで下巻をしてください。



- 3** メインスイッチを押して 内のテンションが3になるように下巻糸を巻いてください。

回転数が表示されます。リールが巻き上げている力(糸のテンション)を 内に数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽速モード時の数値とも異なります。巻き上げ速度はコントロールレバーで調節できます。



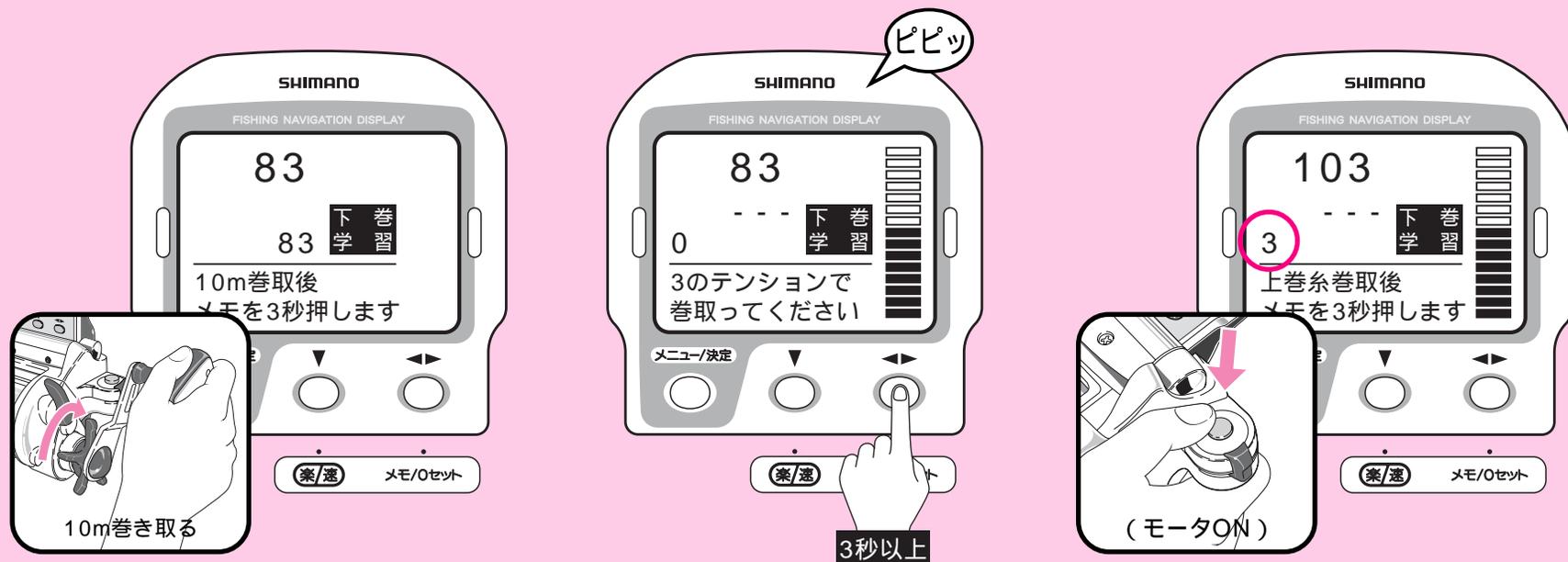
- 4** 巻くのを止めるときは、もう一度メインスイッチを押してください。



- 5** 下巻きを終わったら、下巻糸に上巻用の糸を結びます。その後、メモ/Oセットスイッチを3秒以上押してください。

表示は図のようになります。

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



6 上巻糸を正確に10m分手巻きで巻き取ります。
回転数が表示されます。

7 メモ/0セットスイッチを3秒以上押ししてください。
表示は図のようになります。

8 メインスイッチを押して 内のテンションが3になるように上巻糸を巻いてください。

次ページにつづく

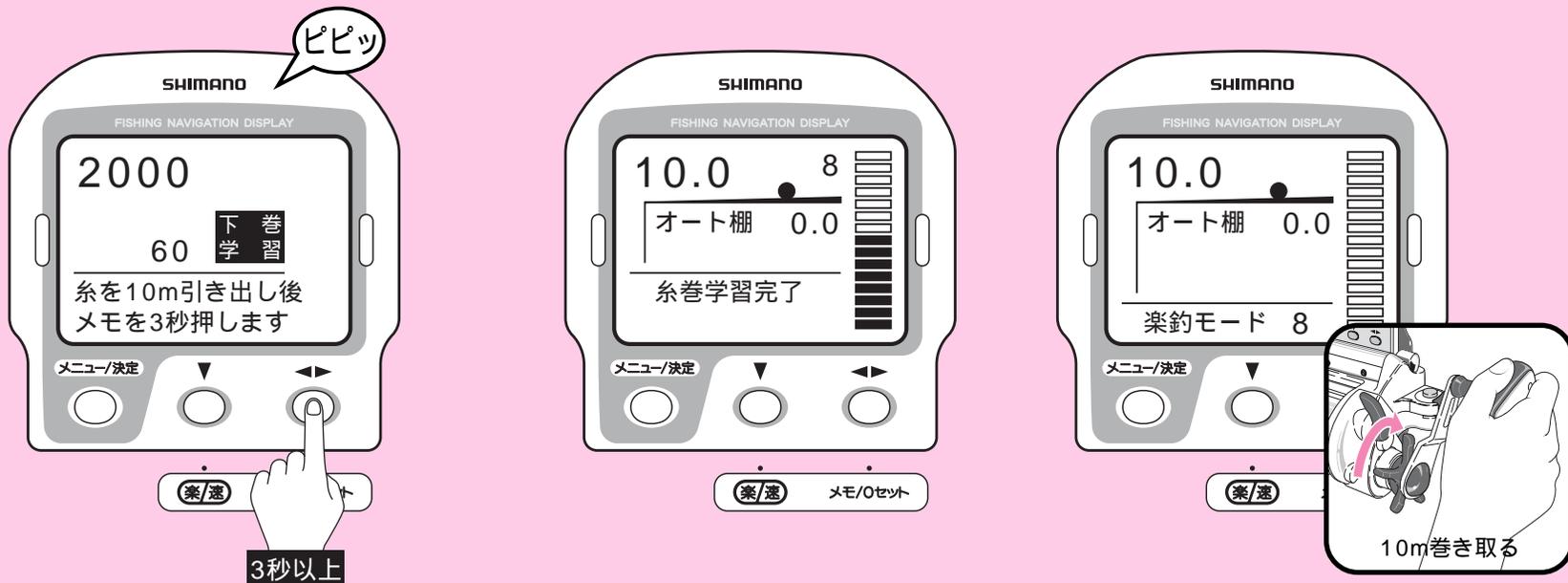


9 巻くのを止めるときは、もう一度メインスイッチを押してください。

10 糸を完全に巻き終えたらメモ/Oセットスイッチを3秒以上押してください。表示は図のようになります。

11 糸を正確に10m分引き出します。
糸の10mごとの色の变化、もしくは1mごとのマーカの数で確認します。
回転数が 60 内に表示されます。

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



12 学習を終了するため、メモ/0 セットスイッチを3秒以上押してください。

13 2秒間図のように表示された後、画面が標準に戻ります。

14 これで学習は完了です。引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。誤差とは、学習後1投目の誤差です。

手順について (電動丸1000SPを早く、有効に使いこなすためには...)



かんたん手順

これさえ知っていれば
とにかく使えます。



べんり手順

簡単で、とっても
便利です。

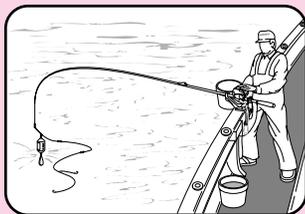


もっともっと べんり手順

知れば知るほどあなたの
釣りの世界が広がります。



0セット

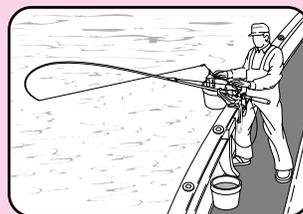


ボタンひとつでシカケが水面
にあるとき0mになるよう
設定。狙った水深に正確に
シカケを投入できます。

くわしくはP32へ!!



船べり自動停止



竿を立てるとシカケが手元に
ビタリともどる、船べり自動
停止機能は手返しにダンゼン
差がつかます。

くわしくはP35へ!!



電動巻き上げ



エサの付けかえをするとき
あるいはアタリがあれば、
メインスイッチを押すだけ
で、らくらく巻き上げ。

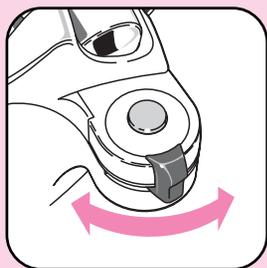
くわしくはP6へ!!

1000SPの機能は大きく分けて3タイプ。あなたの釣り方の好みにあわせてお好きな手順をどうぞ。



コントロール
レバー

コントロール レバー



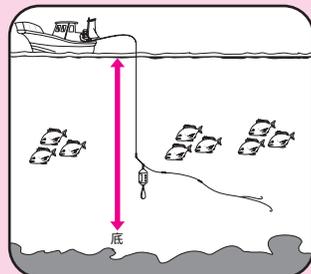
ワンタッチで15段階の
スピードに切り換えられる
から、自由自在のスピード
調整。

くわしくはP6へ!!



メモ

メモ



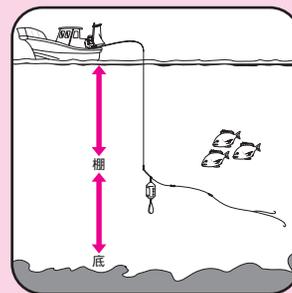
水深をメモリーすれば、次回
そこにシカケがくるとアラ
ームが鳴り、底を知らせ
ます。

くわしくはP37へ!!



上・下から

上から・下から モード切替え



釣場、釣り方、対象魚など
場合に応じたカウンター表示
「上からモード」「下から
モード」が切り替え可能。
棚の水深が一目でわかり
ます。

くわしくはP41へ!!



楽・速モード

楽釣・速度一定 モード切替え



切り替え



巻き上げ速度が変化して
引っ張り合いやシカケのゆる
みを防ぐ「楽釣モード」
と、従来の「速度一定モ
ード」の切り替えで状況に応
じた巻き上げが可能です。

くわしくは
P44～49へ!!

色々なテクニック (ここではテクニックの応用を紹介。釣果にダンゼン差をつけるなら必読！)



応用 その1

シカケを速く落すテクニック。

特にイカを狙うときに有効なテクニックです。

一般的にはスプールコントロールツマミを締めてスピールのフリー回転を少し悪くし、船の上下動による糸のバックラッシュを防ぎます。

しかし、より速くシカケを落とすためにはスプールコントロールツマミを使わずに、自分の指でスピールをサミングしてください。

この他にも次のようなテクニックがあります。

この電動丸1000SPには、自動糸送りの機能が付いています。

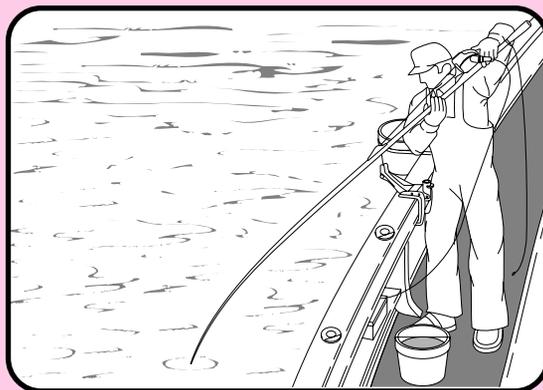
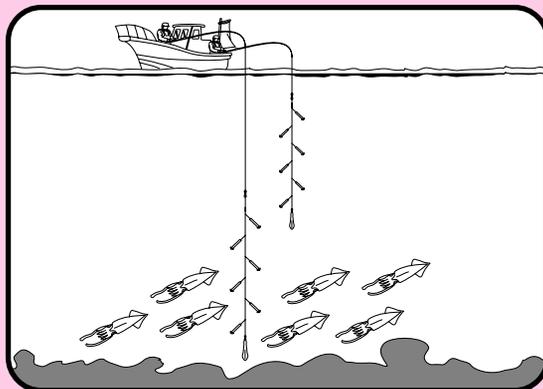
シカケを投入して水深が船べり停止位置から5m以上になったら、自動的にモーターのスイッチがONになります。

モーターの回転の反動で、スピールが糸の出る方向に回ります。

クラッチをリターンさせると、モーターの回転は自動的にストップします。

竿先を下に向け、竿全体を立てることで、ガイドの抵抗を少なくすることができます。

(右図)



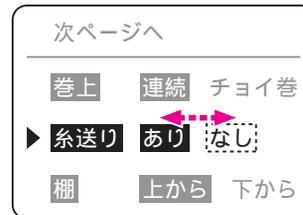
自動糸送り機能の解除と作動

電源を入れたときは自動糸送り機能が作動するようになっています。

ガイドの抵抗、バックラッシュなどでこれを解除したいとき、あるいは再度作動させたい場合、下記の変更を行います。

電動巻き上げがオフの時、メニュー画面を呼び出し、[糸送り]メニューより下記のとどちらかを選択してください。

[あり]
糸送り作動
[なし]
糸送り解除



メニュー画面の操作方法は9～10ページ「メニュー画面の基本的な操作」を参照してください。



電動+手動で スピーディーにシカケを 回収するテクニック。



手返しの時やポイントの移動時のシカケのカラ巻きを、スピーディーに行なうテクニックです。

コントロールレバーで速度設定を15段階の最高速にして電動で巻き上げ、さらに手動で巻き上げると速く巻けます。
(この時、ロッドキーパーに竿を取り付けたまま行えば楽です。)

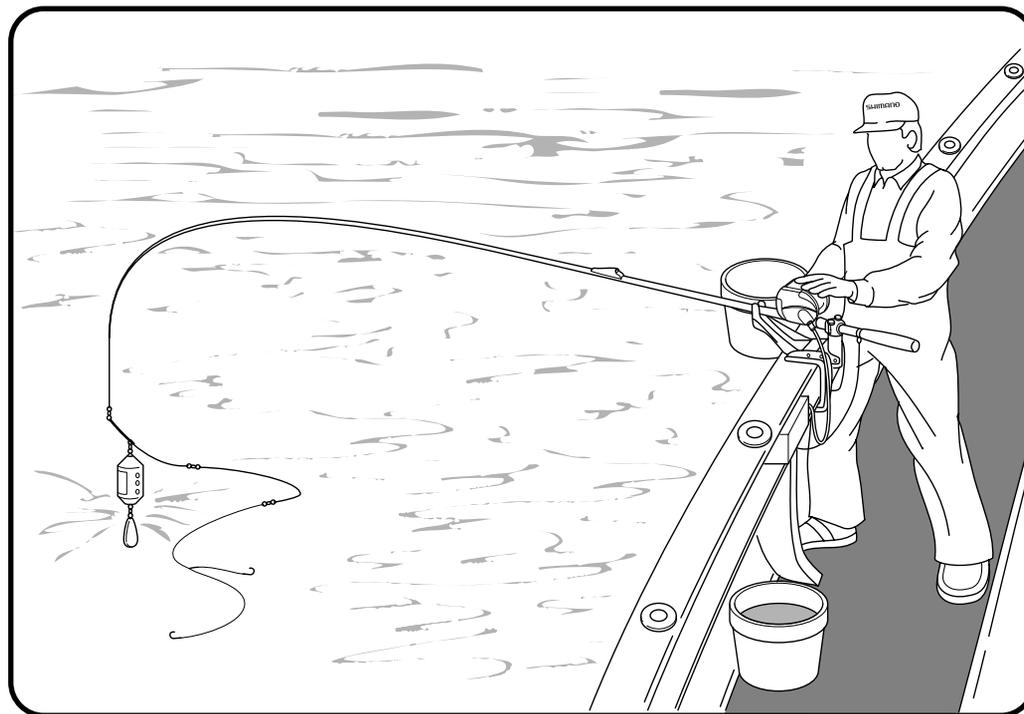
0(ゼロ)セットの設定 (釣りを始める前に必ず行なってください。)

正確な棚取りを実現するために。

釣果アップには、正確な棚取りが不可欠です。そこで「0セット」を設定します。

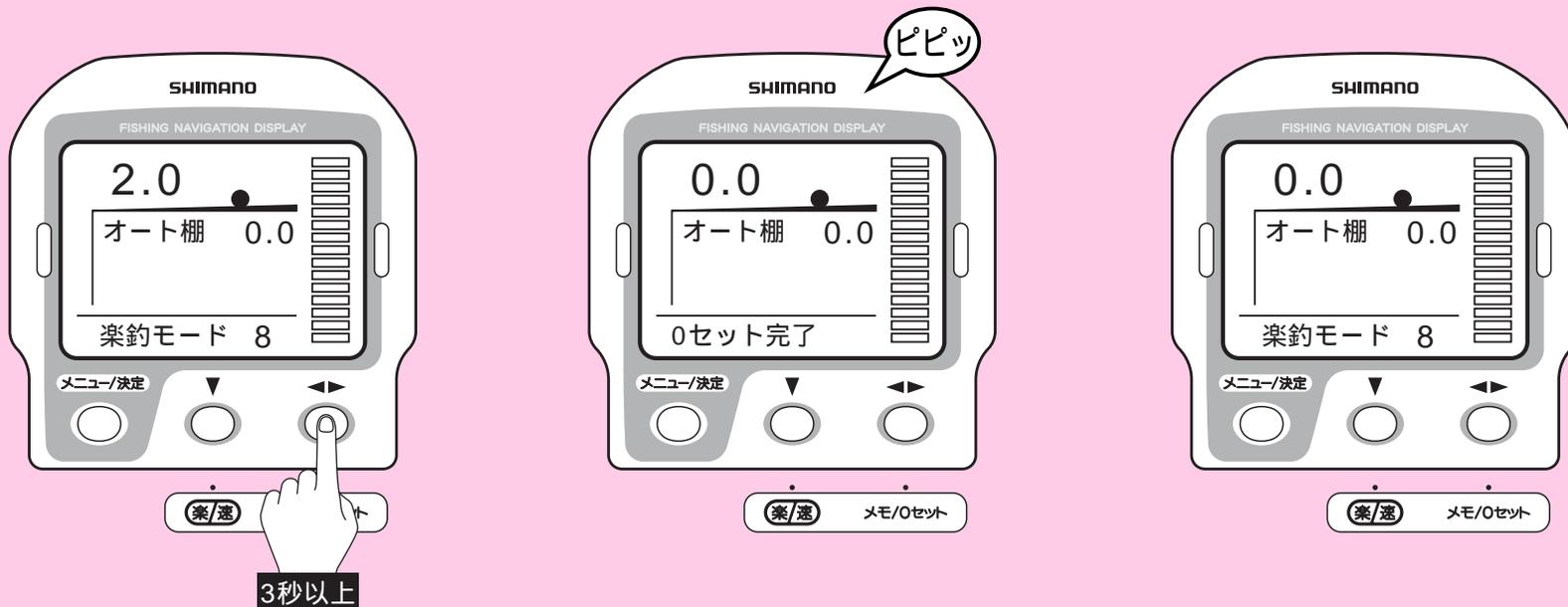
「0セット」とは、シカケが水面にある時を0mとして設定することです。

「0セット」によって、シカケの位置が水深を示すようになり、正確な棚取りを可能にします。



シカケが水面にある時を0mとして設定します。

0セットを試みましょう。



- 1** シカケを水面に合わせ、0セットスイッチを3秒以上押し下さい。

図は上からモード・楽釣モードの場合です。
カウンター内の数値は例として表示しています。

- 2** 「0セット完了」が表示されます。

(現在の水深が6.1m以上の時は、いったん「ピッ」のアラームとともにメモで受け付けますが、0セットスイッチを3秒以上押し続けられれば、再度0セットとして上図のように受け付け直されます。)

- 3** 「0セット完了」の表示が消えれば完了です。

高切れの補正



高切れした場合も、簡単操作で補正が可能です。



- 1** シカケを結びなおしてシカケを水面に合わせ、0セットスイッチを3秒以上押します。

図は上からモード・楽釣モードの場合です。
カウンター内の数値は例として表示しています。

- 2** 図のように表示されます。

- 3** 「0セット完了」の表示が消えれば完了です。

これでコンピュータが自動的に高切れした位置からの実測値表示にプログラムを変更します。

船べり自動停止について



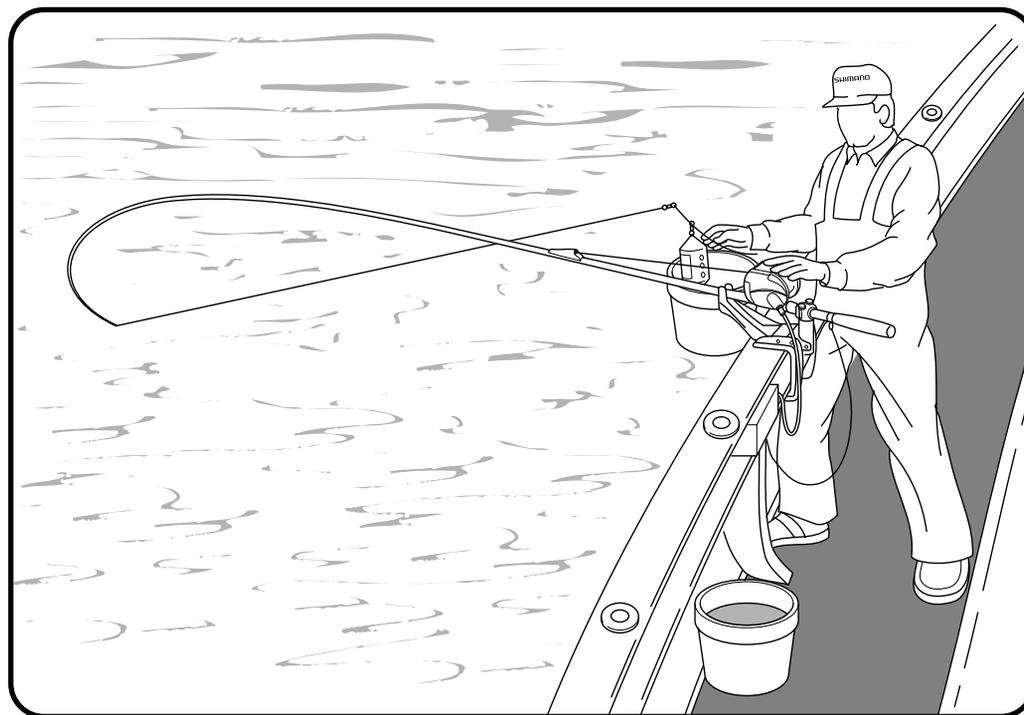
電動巻き上げ停止後、竿を立てればシカケが手元にもどります。

船べり停止後、竿を立てたときにシカケが手元にくるように自動的に設定されます。

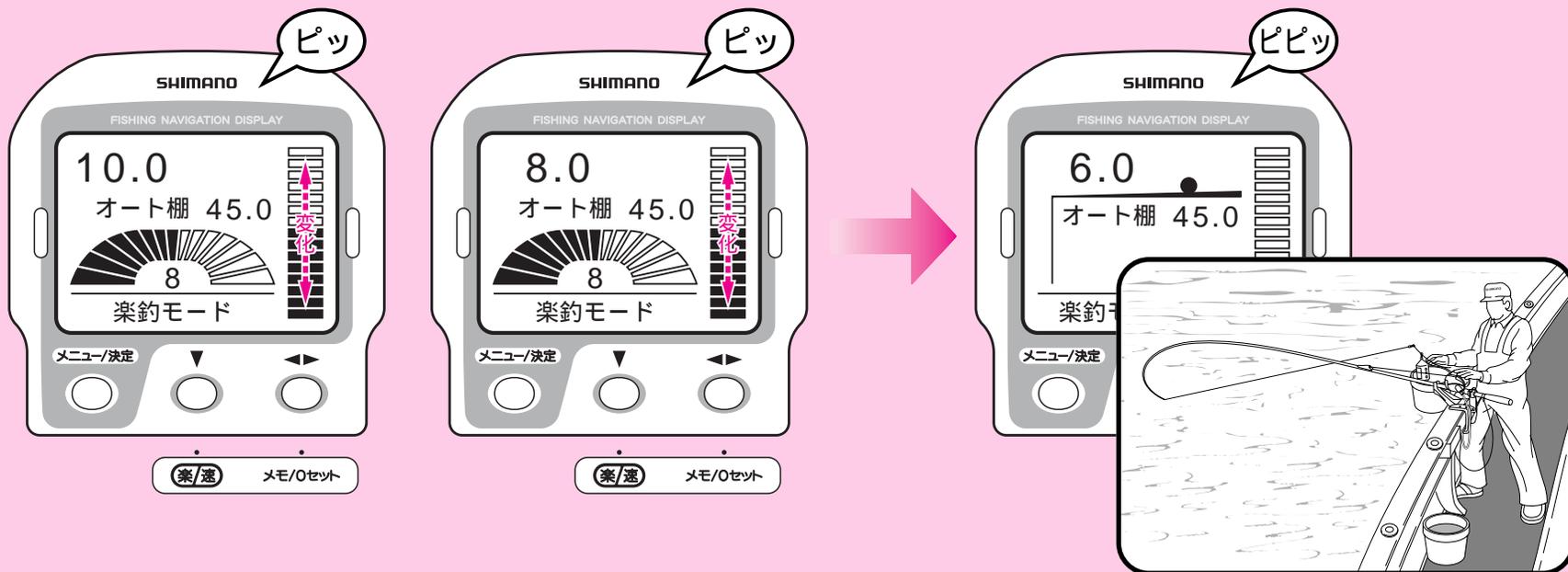
電源投入時初回のみ6mで船べり停止します。

2回目以降はコンピュータが自動的に判断してシカケは前回取り込んだ位置で停止します。

(この機能は1m～6mの範囲で6秒以上停止した場合に作動します。)



船べり自動停止位置の4m手前からアラームでお知らせします。



- 1** セットされている船べり自動停止位置の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。

図は上からモード・楽釣モードで巻き上げた場合の表示のため、速度表示が変化しています。

- 2** 船べり自動停止位置（この場合は6.0m）で「ピピッ」のアラームが鳴り、自動的に巻き上げを停止します。

船べり停止後、竿を立てるだけで手元にシカケがくるので、すばやく上図のようにとりこむことができます。

棚または底の水深をメモリーする方法

メモリーした水深の4m手前からアラームでお知らせします。



オート棚メモ



シカケが6秒以上停止していた水深（6.1m以上の場合は、棚として自動的にメモリーされ、船べり停止時に 内に表示します。

複数あれば一番最後の水深・6秒未満停止の場合は最も深かった水深をメモリーします。カウンター内の数値は例です。

手動棚メモ



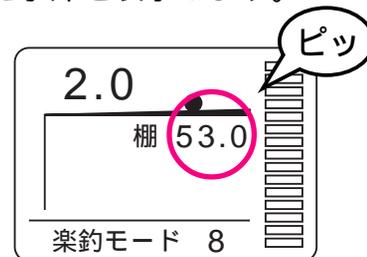
シカケをメモリーしたい水深（6.1m以上）に合わせ、メモスイッチを3秒未満押します。

「オート」の表示が消え、例図ですと53.0mの水深がメモリーされます。

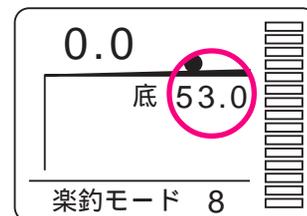
それぞれメモリーした水深を右の場合に表示します。

このセットは何回でも入れ替えが可能です。手動棚メモ解除の方法は次ページを参照してください。

【上からモード】の場合...
船べり停止時、 内にメモリーした水深を表示します。



【下からモード】の場合...
スイッチを押すと同時に現在の水深が0.0mになり、 内にメモリーした水深を表示します。



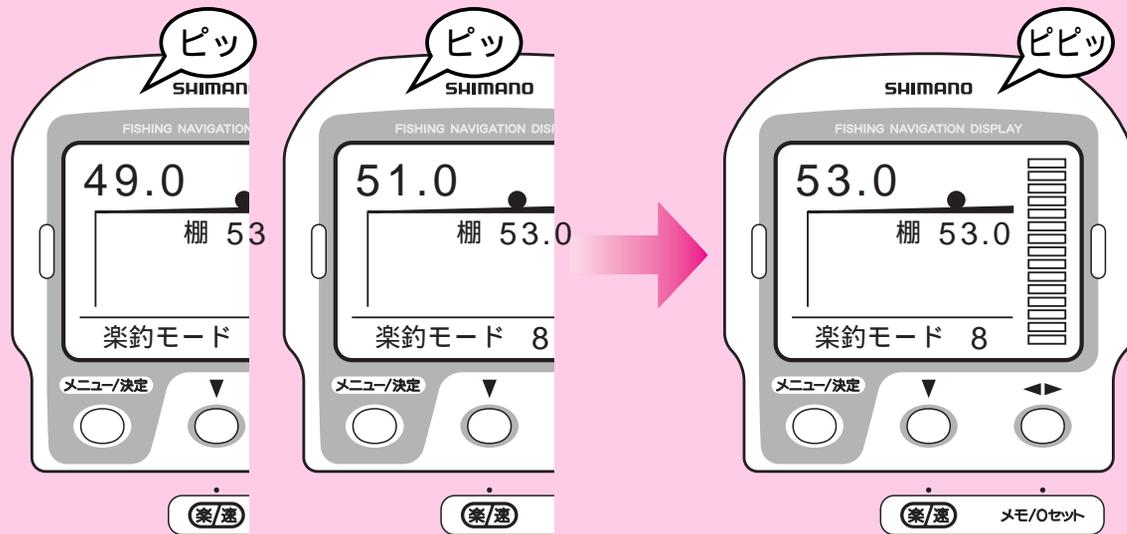
手動棚メモの解除方法



船べり停止時に楽/速スイッチを3秒以上押してください。

「オート」が表示され、オート棚メモが働きます。

シカケがメモ水深にくると「メモアラーム」によって知らせてくれます。



1 シカケをおろす方向のみ、セットされているメモ水深の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。

カウンター内の数値は例として表示しています。

2 メモ水深（この場合は53.0m）で「ピピッ」のアラームが鳴ります。

1回の上げ下ろしにつき、アラームは1回のみです。

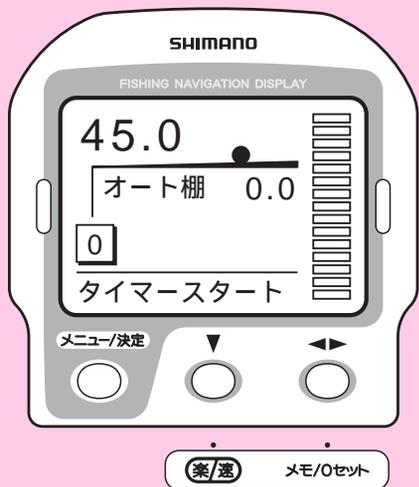
いったん6.0m未満まで巻き上げたり、0セットを行ったりした場合、再度アラームがメモ水深をお知らせします。

棚タイマーについて



シカケが棚に停止している時間を自動的に計測し、お知らせします。

簡単モードでは使用できません。



6.1m以上で3秒以上シカケが停止していた場合タイマーが作動します。

停止3秒後「タイマースタート」が表示され、タイマーがスタートします。

図は上からモード・楽釣モードの場合です。カウンター内の数値は例として表示しています。

20秒おきに画面の魚が右から左に移動し、経過時間をお知らせします。

1分以上経過すると 内に経過分数を表示します。

船べり停止するまでタイマーは継続されます。

簡単操作大画面モード



2通りの画面表示方法を、お好みで選べます。

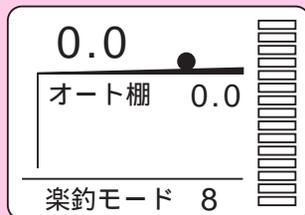


電動巻き上げがオフの時メニュー画面を呼び出し、[表示]メニューより右記のどちらかを選択してください。

メニュー画面の操作方法は9～10ページ「メニュー画面の基本的な操作」を参照してください。

[標準]...標準モード

すべての機能が使用可能です。



[簡単]...簡単モード

現在の水深・棚水深・速度目盛りのみ表示されます。

巻き上げは速度モードで動作します。メインスイッチ1回押しの連続巻き上げのみ使用可能です。

楽釣モード・ダブルクリック操作・さそい学習は使用できません。



簡単モードを選択されている場合、メニュー画面での表示は下記ようになります。

《1ページ目》

▶ 次ページへ

巻上 連続
糸送り あり なし
棚 上から

《2ページ目》

▶ メニューから出る

糸巻学習
表示 標準 簡単
さそい しない

2通りの棚の取り方・上からモードと下からモード



棚取りに便利な「上からモード」と「下からモード」。

船釣りで釣果を上げるコツは、いかに正確に魚のいる水深（すなわち棚）にシカケを降ろすかということです。

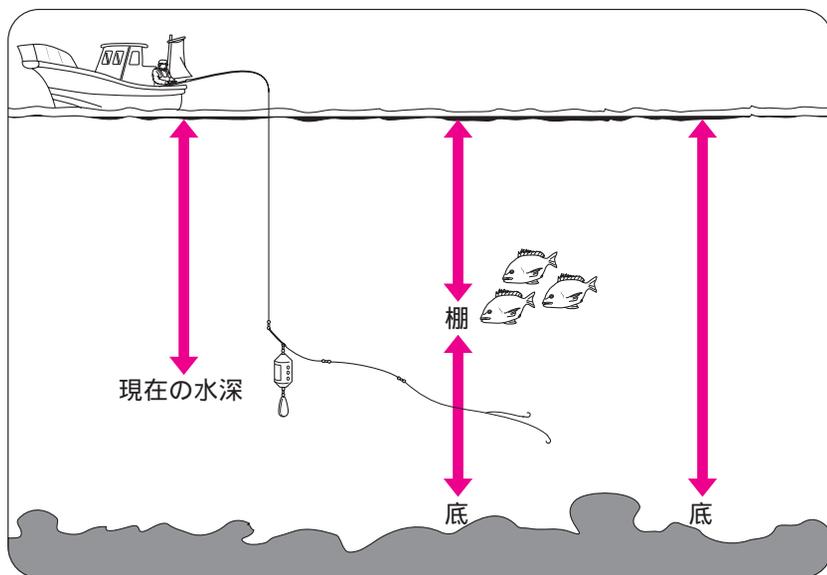
最近では高性能の魚群探知機により、魚のいる水深が正確にわかります。

通常、船長がこの棚を教えてくれます。この場合釣場、釣り方、対象魚などによって水面から棚が指示される場合と、海底すなわち底から棚が指示される場合の二通りがあります。

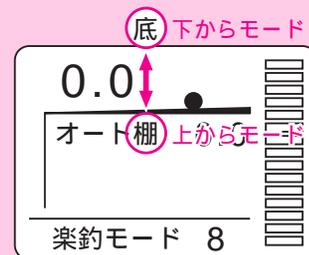
NEW電動丸1000SPは、上から棚をとるのに便利な「上からモード」と底から棚をとるのに便利な「下からモード」の2つのモードを備えています。

その日の釣りに合わせて、切り替えてご使用ください。

「下からモード」は簡単モードでは使用できません。



モードを切り替えるには...



内の表示が「棚」なら上からモード、「底」なら下からモードです。

電動巻き上げがオフの時メニュー画面を呼び出し、[棚]メニューより下記のどちらかを選択してください。

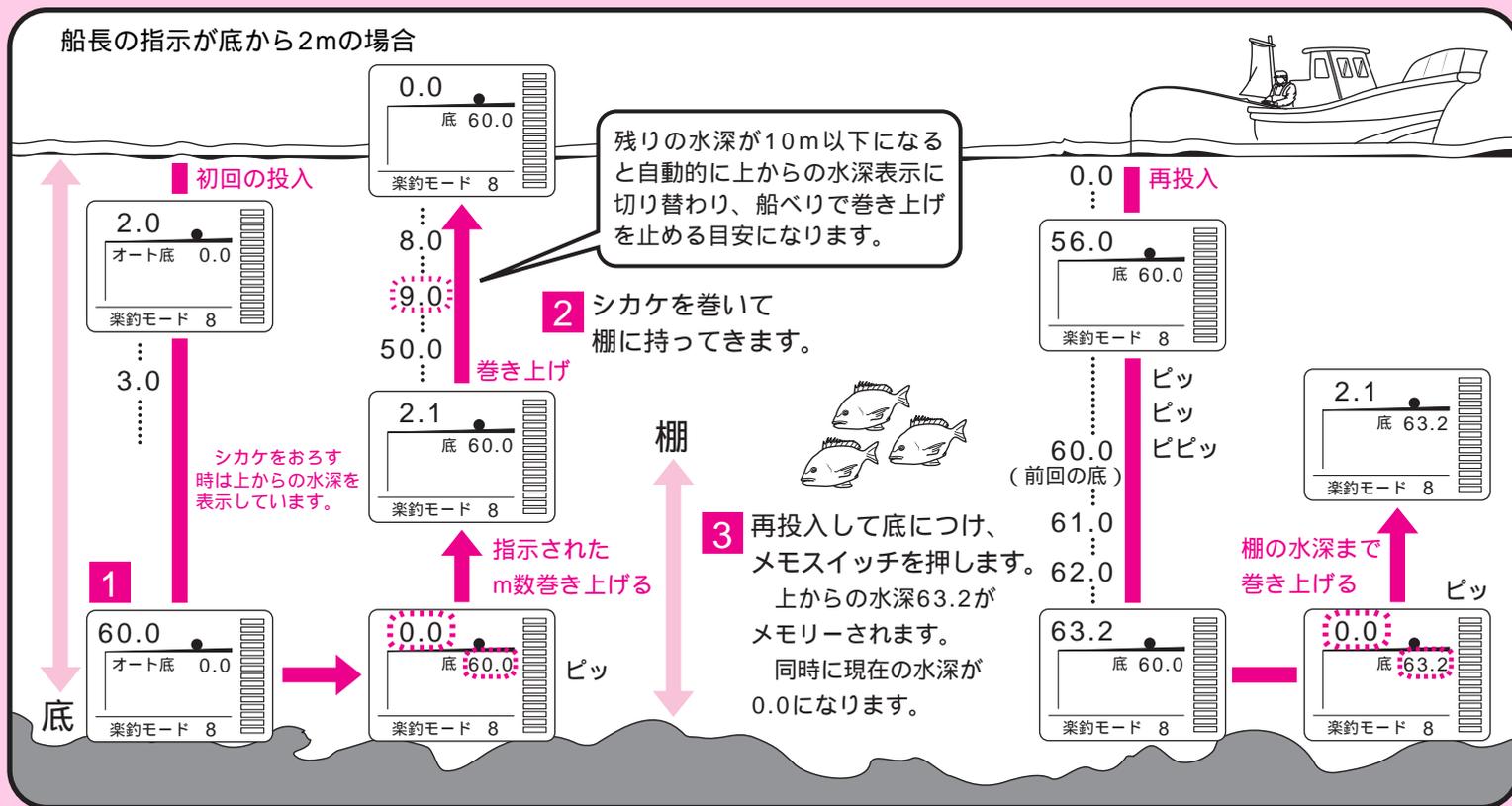
[上から]...上からモード

[下から]...下からモード



メニュー画面の操作方法は、9～10ページ「メニュー画面の基本的な操作」を参照してください。

下からモードの実釣編



1 シカケをいったん底につけ、メモスイッチを押します。

上からの水深がメモリーされます。

同時に現在の水深が0.0になります。リールを巻き上げるとプラスにカウントし、底からの水深を表すようになります。

「下からモード」は簡単モードでは使用できません。

解説！

船長の指示が「底から何m」といった場合、釣りはシカケをいったん底まで降ろして指示されたm数だけシカケを上げます。（通常この時にコマセを振ります。）

底の状態の変化に魚が平行して付いている釣場では、シカケの投入のたびにシカケを底に着けてから棚を取り直します。

2通りの巻き上げ方・楽釣モードと速度一定モード



1 楽釣モードとは？

「楽釣モード」は簡単モードでは使用できません。

「楽釣モード」は、お客さまが設定したテンションを一定に保とうとする機能です。つまりラインにかかるテンション（負荷）をリールが感知して、モーターの回転速度を自動的に変化させ、つねに一定のテンションを保って巻き上げます。

つまり

モーターと魚の瞬間的な引っ張り合いを避けてくれる。	波が荒くて竿の操作では追いつかないときにも便利。
魚が突っ込んだり船が急に持ち上がったときの急なテンションの上昇に応じてモータースピードが遅くなって調節してくれる。	ポンピングで竿をおろしたときなど急なテンションの降下に応じてモータースピードが速くなってシカケにたるみができない。
これなら楽だし、手巻き感覚で安心です！	

さらにこんなメリットも...

いったん楽釣モードのレベルを設定すれば、あとはメインスイッチのON・OFFを押すだけのワンアクション。

電動と魚の瞬間的な引っ張り合いがなくなることによって、シカケ本来の強度が得られます。（一度1号のハリスを瞬間的に引っ張るとじわっと引っ張るとどちらが強いか試してみてください。）



その際手袋等をして、ケガのない様ご注意ください。

各表示について

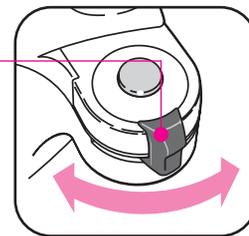
ここでは楽釣モード・速度一定モードの設定に関するスイッチ、表示のみについてご紹介しています。

スピード表示

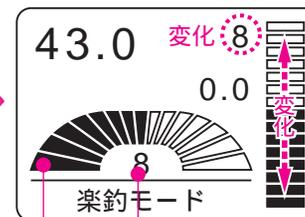
電動巻き上げのスピードを表示します。
巻き取り動作を行っていないとき速度は表示されません。
巻き取りを始めると、設定された楽釣モードの数値になるうと速くなったり遅くなったりしますので速度数値と目盛りが上下します。速度一定モードではこの表示で電動巻き上げ速度を設定します。

コントロールレバー

楽釣モードのテンションの設定や速度一定モードの巻き上げ速度の設定を行います。



《巻き上げ時の表示》



楽/速モード表示

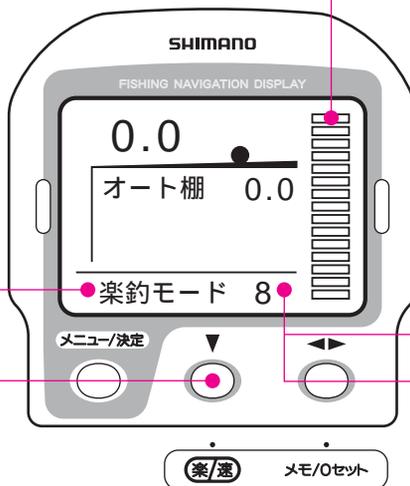
現在の設定モードを確認できます。

楽/速スイッチ

楽釣モード・速度一定モードの設定ボタン。
押しごとに楽釣モード・速度一定モードが切り替わります。

テンション表示

巻き上げの力（糸のテンション）を数値と目盛りで表示します。
楽釣モードではこの表示を設定します。
数字=kgではありません。



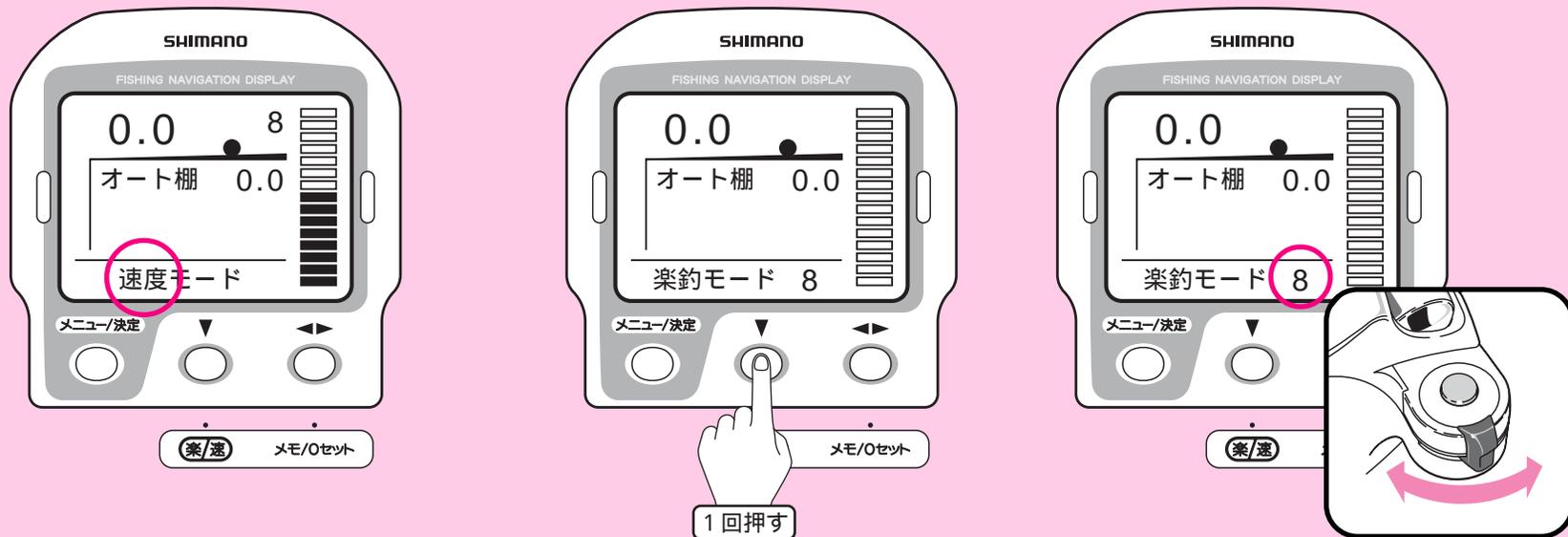
テンション設定数値 対象魚別の目安

テンションの数値は、使用するハリスおよびシカケを考慮して設定してください。
対象魚別の設定値は右記の一覧表を参考にしてください。

設定値はあくまで目安です。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
アジ		■													
マダイ			■												
ヒラメ				■											
イカ				■											
ワラサ							■								

楽釣モードの設定方法 面倒な操作がいらすワンタッチで設定でき、誰にでもすぐ使いこなせます!



1 楽/速モード表示が「速度モード」なら **2**、すでに「楽釣モード」になっていれば **3** の操作を行ってください。

2 「楽釣モード」にするため楽/速スイッチを1回押します。ワンタッチで簡単にモードを切り替えられます。(**3** の操作へ)

3 コントロールレバーでテンションの数値を設定したら完了です。
15段階の設定が可能です。この時の数字はkgではありません。あくまで設定値です。

すでに「楽釣モード」になっている場合



2 速度一定モードとは？

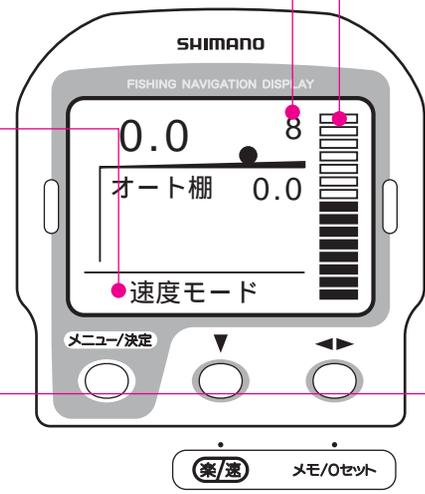
巻き上げてくる対象物が大きくなるが小さくなるが、つまりリールにかかる負荷が大きくても小さくても、モーターが調整して設定された速度を一定に保って巻き上げます。(速度 電動リールのスプール回転速度)

速度一定モード時の液晶表示

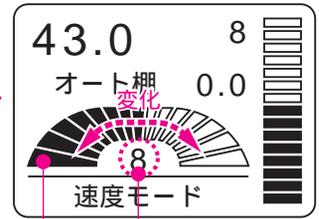
スピード表示
この数値と目盛りを基準に速度を設定します。

楽/速モード表示
現在の設定モードを確認できます。

テンション表示
速度一定モードの場合、巻き取り動作を行っていないときはテンションは表示されません。巻き取りをはじめると、設定された速度を一定に保とうとしてテンション表示が変化します。この数値の大小により現在のモーターにかかっている負荷がわかります。(巻き上げてくる対象物の大小がわかります。)
速度一定モードで巻き取り中に表示されるテンション値は、楽釣モードで設定するテンション値と同じです。



《巻き上げ時の表示》

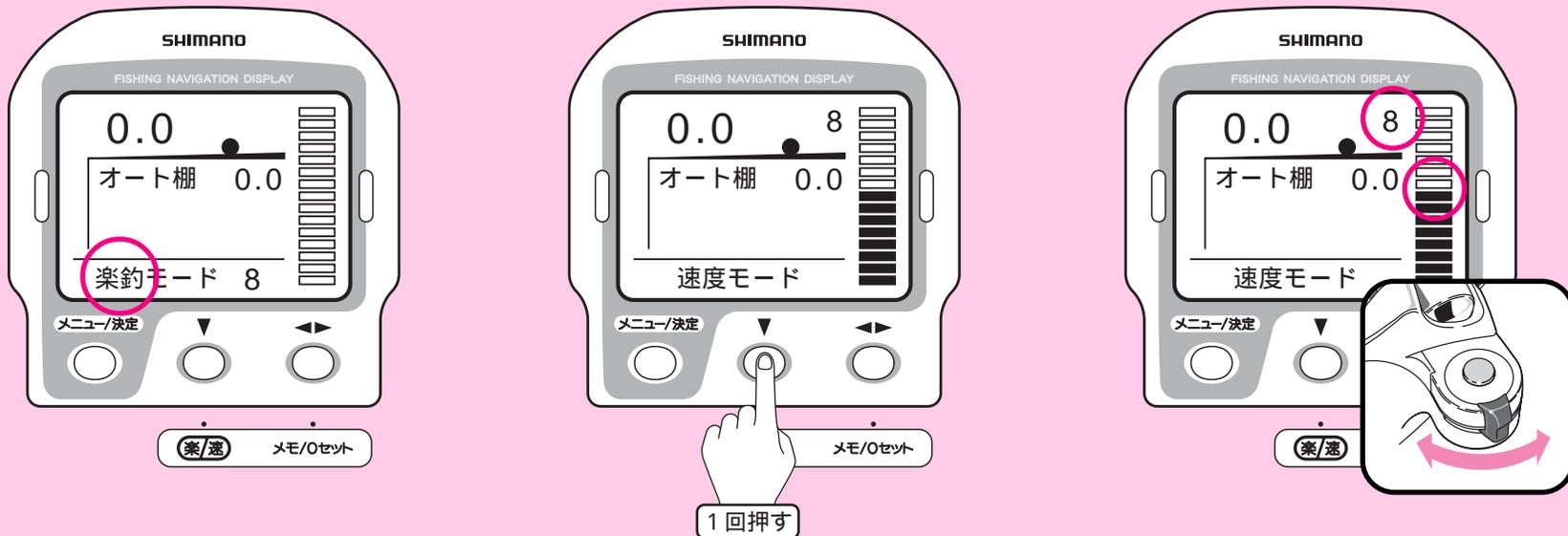


速度一定モード設定数値一覧表 (目安)

各設定値での速度は下記の一覧表を参考にしてください。設定値はあくまで目安です。()は無負荷時です。

設定値	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
速度一定モード (m/分)	9	17	26	35	44	53	62	71	80	90	100	110	120	130	(180)

速度一定モードの設定方法 生きエサを使うときにはこのモードで! 切り替えもワンタッチで簡単です。



1 楽/速モード表示が「楽釣モード」なら **2**、すでに「速度モード」になっていれば **3** の操作を行ってください。

2 「速度モード」にするため楽/速スイッチを1回押します。
ワンタッチで簡単にモードを切り替えられます。(**3** の操作へ)

3 コントロールレバーで速度を設定したら完了です。
15段階の設定が可能です。

すでに「速度モード」になっている場合

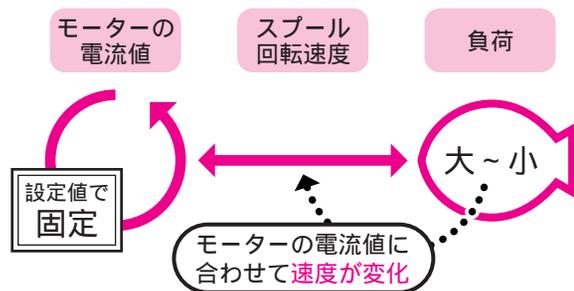
楽釣モード・速度一定モードの詳細について...

【楽釣モード】

楽釣モードのテンションとは電動のモーター消費電流値の事で、楽釣モード時には設定した消費電流値が、電動にかかる負荷の上下で変わらないよう調整されます。つまりモーター消費電流値が固定されるわけです。

消費電流値 (= テンション) が固定されると、負荷が大きくなれば巻き上げ速度は遅くなり、負荷が小さくなれば巻き上げ速度が速くなります。(電動のパワー調整機能)

したがってテンションを設定するという事は、実はモーターに流れる電流値を設定しているわけです。

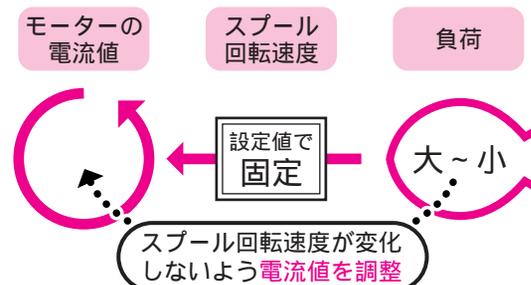


【速度一定モード】

速度一定モードの速度とは電動のスプールの回転速度のことで、設定したスプールの回転速度が、電動にかかる負荷の上下で変わらないよう調整されます。

速度一定モードでは、モーターに流れ込む電流値とスプールの回転速度を検知し、設定した数値よりも回転速度が落ち込んでくると電流値をアップさせて回転速度を保ちます。

たとえば速度のレベルを5速に設定したとします。そしてその速度を44m/分とすると、1kgのタイがかかったときでも44m/分で巻き上げてきますし、5kgのタイがかかったときでも電動に流れ込む電流値がアップして44m/分で巻き上げます。



さそい学習



コンピュータにシャクリやさそい方を記憶させれば、リールがそれを再現してくれます。 [さそい][学習]メニュー
一日中シャクリ続けるイカには特に便利です。(簡単モードでは使用できません。)



- 1 電動巻き上げがオフの時、メニュー/決定スイッチを押して、メニュー画面を呼び出します。

表示は図のようになります。



- 2 メニュー画面2ページ目で、[さそい]メニューの[学習]を選択し、決定してください。

メニュー画面の操作方法は9～10ページ「メニュー画面の基本的な操作」を参照してください。

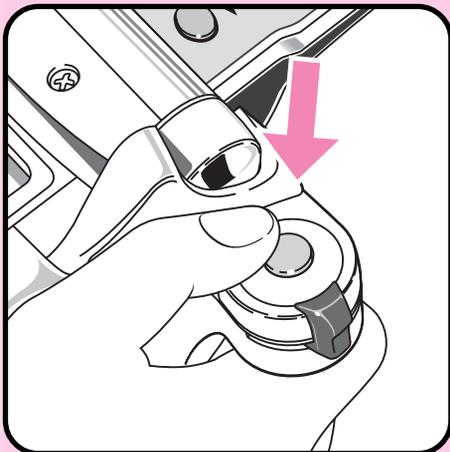


- 3 [さそい][学習]を決定すると、表示は図のようになります。

さそい学習は最大30秒間記憶させることができます。

内に記憶可能な秒数が表示されます。スプールが巻き上げ方向に回転すると記憶を開始し、同時に記憶可能な秒数のカウントダウンが始まります。

電動で入力する場合

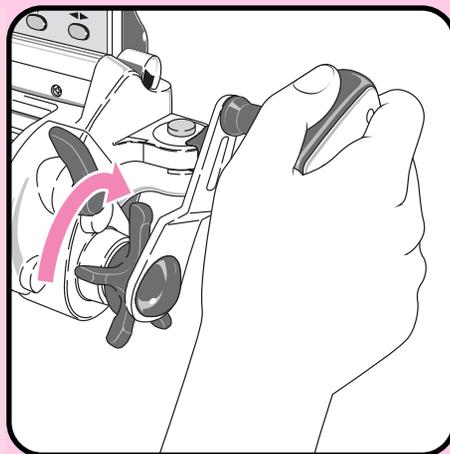


コントロールレバーで巻き上げ速度を選択します。(15段階)

さそい動作の入力中は、メインスイッチを押している間だけ電動巻き上げが作動します。

メインスイッチで記憶させたいタイミングで巻き上げ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。

ハンドル操作で入力する場合



好みの速さでハンドルを回転させ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。

ハンドル1回転に2秒以上要する超スローな巻き上げは学習しません。また、電動巻き上げの最高速度以上でスプールが回転した場合は、電動巻き上げの最高速として学習します。



4 電動巻き上げかハンドル操作でさそい学習します。

記憶可能な残り秒数のカウントダウンを開始し、内に1動作ごとに巻き上げた糸の長さを表示します。

次ページにつづく

注意:カウンター内の数値・モード・反転表示などは例として表示している場合があります。全く同じ表示になるわけではありません。



いったんスプールが回って入力が始されると、その後の静止状態も入力されます。比較的短い操作をくり返すときは、その1回分の入力だけで記憶を終了します。図は速度モード・最高速にして電動で巻き上げ、3秒静止後の例です。

- 5** メニュー/決定スイッチを押せばさそい学習が終了します。メニュー/決定スイッチを押さなかった場合は学習開始から30秒で自動的に終了します。カウントダウンがスタートした時点からのしゃくり、さそいが記憶されます。さそい学習終了時の表示は図のようになります。

内に目安ですが累積巻き上げ距離を表示します。

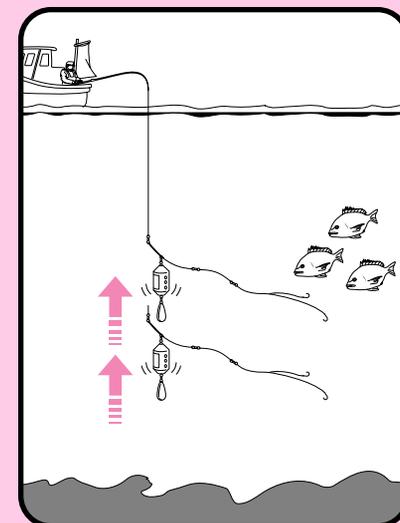
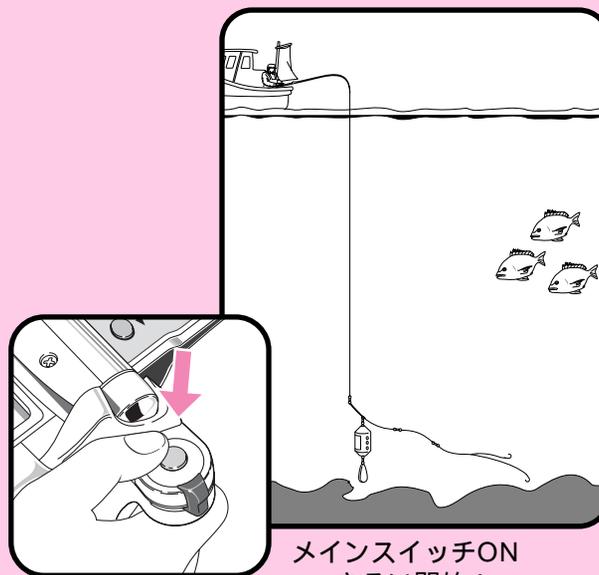
- 6** 2秒後「さそい学習完了」の表示が消えて入力が完了し、自動的にさそいモード（[さそい][する]）になります。

新たにさそい学習を入力しますと、前の動作は消えます。

さそいの再現方法



さあ！いよいよインプットしたさそいを再現してみましょう。
[さそい][する]メニュー 簡単モードでは使用できません。



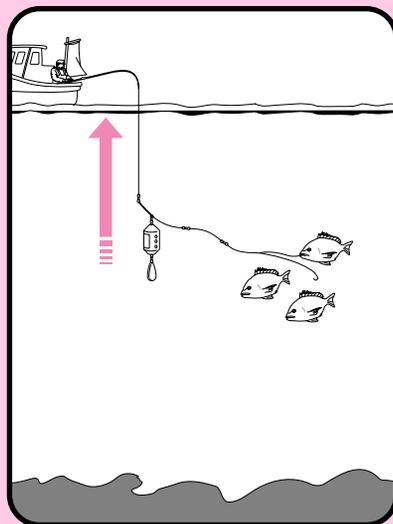
1 内の「さそい」表示を確認します。

表示していない場合、電動巻き上げがオフの時メニュー画面を呼び出し、[さそい]メニューより[する]を選択してさそいモードにしてください。メニュー画面の操作方法は9～10ページ「メニュー画面の基本的な操作」を参照してください。

さそいモード時は楽/速モード表示が図の 内に表示されます。アタリがあった場合にこのモードで巻き上げますので必要に応じて楽/速スイッチで変更しておきます。

メインスイッチをONにすると、記憶した巻き上げをくり返し行います。

注意:カウンター内の数値・モード・反転表示などは例として表示している場合があります。全く同じ表示になるわけではありません。



アタリ!巻き上げ

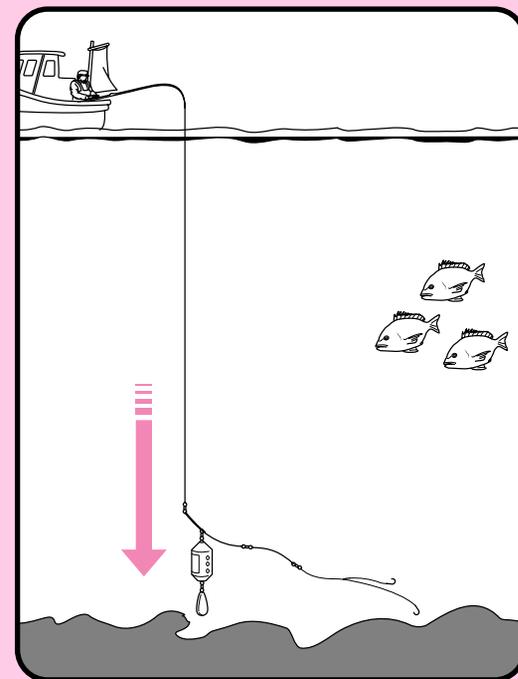


- 2 アタリがあればメインスイッチ
2回押しで電動連続巻き上げ
を開始します。

図は速度モードで巻き上げた場合の表示です。
楽釣モードの場合、テンション表示は一定で
速度表示が変化します。

さそい再現中の表示は速度モードの場合、図のようになります。楽釣モードの場合、速度は表示されません。さそい動作中は内の「さそい」が点滅します。
さそい動作中はダブルクリック操作(6ページ参照)になっていますので、アタリがあればすぐに巻き上げられます。
急激にショックを与えないため、速度設定は中速か低速にしておくのがよいでしょう。

魚を取り込み、もう一度仕掛けをおろして、
さそい動作を行いましょう。



メインスイッチON
再びさそい開始!

- 1 さそいモードで船べり停止した時の表示は図のようになります。
このままさそい再現を続ける場合は再度投入します。やめる場合はメニュー画面を呼び出し、[さそい]メニューより[しない]を選択してください。
メニュー画面の操作方法は9～10ページ「メニュー画面の基本的な操作」を参照してください。

- 2 投入後、表示は図のようになります。
シカケをもう一度棚までおろしメインスイッチをONにすると、再度記憶した巻き上げをくり返し行います。

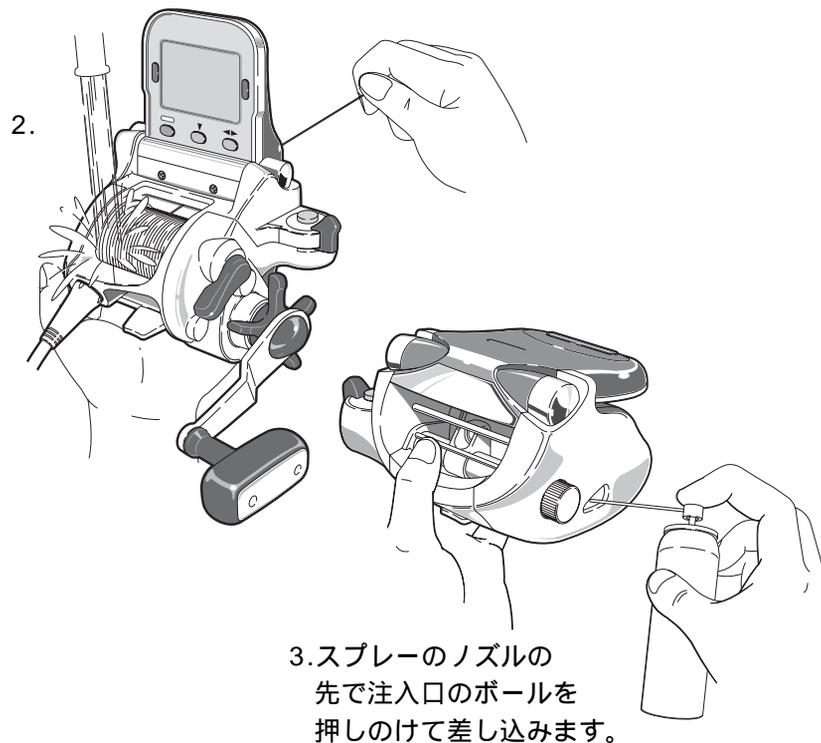
お取り扱い上の注意

電動丸は、精密部品で構成されていますので下記注意事項を守ってお取り扱いください。
また、釣行後の手入れを十分行ない、未永くご使用ください。

1 リールのお手入れ方法について

この電動丸1000SPはリールに付いたコマセなどの汚れを洗い落とした後、ベアリングにオイルを注入できるシステムになっています。
用意するもの：リール・スポンジ・オイルスプレー（付属）

1. 水道水をリールにかけながら、スポンジで汚れを落とします。
水中に浸けて洗わないでください。
2. スプールと本体の間に水をかけながらクラッチを切って道糸を2～3m出します。（右図参照）これによりスプール軸受け部に付着した塩分を洗い流せます。
3. 釣行2～3回おきに、右図のように左サイドプレート穴より付属のオイルスプレーを注入してください。
オイル注入後の保管によって、注入口等よりオイルが流れ出ることがありますのでオイル汚れにご注意ください。
4. 影干してよく乾燥させてください。その後付属のグリスにて、レベルwind部分の棒状ギヤとその右側付け根の白いリング部分（付属のパーツリストにあるクロスギヤ軸及びクロスギヤ受け）に綿棒等でグリスUPしてください。



2 ご使用上の注意

根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、できるだけ釣場に糸が残らないように引き寄せて切ってください。
リールはていねいに扱ってください。移動時、特に投げ投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意ください。
リールは落としたり、衝撃を与えないよう、ていねいに扱ってください。

船の竿立てに収められる時は、リール後部及び電源コードに衝撃を与えないよう、また、コードを折り曲げないようにご注意ください。
特にコードをリールと船べりの間にはさまないようにご注意ください。
偏光ガラスの種類によってカウンター液晶画面が見にくくなる場合があります。

3 お手入れの方法

コネクター部の腐食防止のために、リールを使用にならない時は防水キャップをしてください。

リールは絶対に分解しないでください。内部にはモーター、ブレーカーなどの電気部品が入っていますので故障の原因となります。

ドラッグ部分には絶対オイルを付けないでください。オイルが入るとドラッグ力が低下することがあります。ドラッグ部分には水が入らないようにしてください。

高温、高湿の状態でも長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、上記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。

ご自分で分解・修理をされる場合は、部品のエッジ等で手を切らないようにご注意ください。

スプール右側（ハンドル側）のベアリングにはA-RBを採用しております。そのため防錆に関しましては、従来のベアリングと比較して非常に性能アップはしておりますが、塩噛み（海水がベアリング内部に入って乾き結晶となる）した場合、音鳴り・回転が重くなる等の原因となります。したがって釣行された際には、前ページ「リールのお手入れ方法について」を参照し、お手入れを行っていただくようお願いいたします。

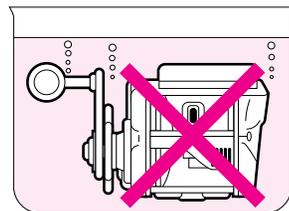
4 フィッシングナビゲーションディスプレイについてのご注意

フィッシングナビゲーションディスプレイは偏光ガラスで見た場合、黒い影が見えることがございます。

フィッシングナビゲーションディスプレイ内部には基板が入っていますので、温くなる場合がございます。

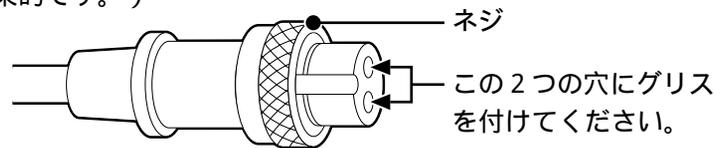
リール本体、特にカウンターユニット部は、水没させないでください。

（カウンターユニットは日常生活防水仕様ですがトラブルを防止するため、水没させないでください。）



お手持ちのリールを末永くご愛用いただけるよう特別のグリスを作成しました。下記の図のように電源コードの端子の2つの穴に付けていただくようお願いします。

（リール本体側の電源コードの端子にもグリスを塗布していただくことにより効果的です。）



ディスプレイの保護シールは、はがして使用してください。

フィッシングナビゲーションディスプレイの開閉時には、指等をはさまないように注意してください。

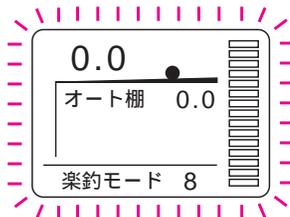
セーフティ機能 / 仕様

4 セーフティ機能

自動復帰ブレーカー

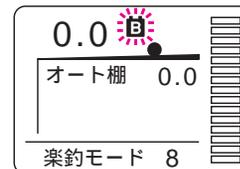
モーターに過負荷がかかった場合、モーターを保護するためにブレーカーが働きます。ブレーカーが作動した時は右図のように全表示が反転します。

注意 この時、モーター保護のためモータースイッチをOFF・ONせずに5分以上休ませてください。点滅が点灯になればブレーカーは復帰です。



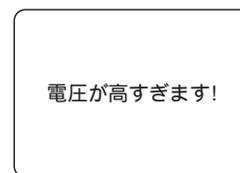
バッテリー検出表示

バッテリー電圧が下がったり、コード・コネクタの接触不良がおこると、バッテリーの絵文字が点灯します。



電圧が高すぎる場合

DC18V以上の電圧がかかると右図のように表示されます。



5 仕様

品番	製品コード	ギヤ比	最大ドラグ力 (N/kg)	自重 (g)	糸巻量(号-m) デュラPE使用	最大巻上速度 (cm/ハンドル1回転)	電動巻上速度 (m/分)	スプール (径mm/幅mm)	ベアリング (ボール/ローラ)
電動丸1000SP	RG171000	3.7 : 1	78.4/8	680 (740)	3-400 4-300 5-200	56	最高速180・中速130～低速9まで 14変速の合計15変速	47.8/38	2/1

自重の()内は元々本体に接続されている電源コードを含む重量です。

標準付属品 コード、布袋、取扱説明書、分解図、グリス、糸通しピン、下巻きゲージ、オイルスプレー

製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。
手紙での問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

修理に出されるときには、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。
その際には必ず、修理箇所、不具合内容を具体的に（例/ストッパーが働かない）お知らせください。

また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄りの営業所・本社（フリーダイヤル）または釣具サービス課へお問い合わせください。

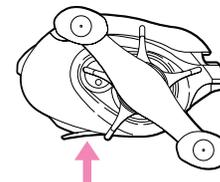
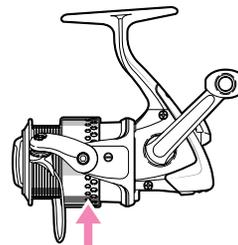
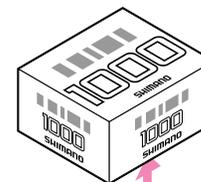
修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。商品の故障等によって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。

ご自分で修理をされる場合の部品や替えスプールのお取り寄せは分解図をご覧いただき、製品名・製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、ご注文ください。（内部の部品に関しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをお勧めします。）

例 / 製品名 : ステラFW1000S
製品コード : SC78B010
部品番号 : 2
部品名 : スプール

製品コードの位置

取扱説明書・分解図・パッケージ底面部・製品（コードの上5ケタを表示しています。）



故障かな？と思われたときは

こんなとき	操作	参照
液晶が真っ黒、及び全文字が現れる。	高温度の雰囲気（車のトランクの中等）にさらされた時に生じる場合がありますが、温度が下がるにしたがって正常にもどります。	
液晶が表示しない。	バッテリーと電源コードの（+）（-）とが正しく接続されているかをお確かめください。バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。	P.7
液晶が表示しない。（極寒で使用の場合）	液晶の特性上-15℃以下で放置されますと、電源をつないでもしばらくの間表示しません。（電源がONの状態になり、カウンター内部の基板が温まれば表示されます。） 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうかカバーを付け、保護することをおすすめします。	
糸巻学習がセットされない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.11～P.27
ラインを送り出してもカウントしない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.11～P.27
誤差が大きい。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.11～P.27
カウンター表示と、糸の水深色分けとが一致しない。	糸の種類により、程度の差はありますが、使用中に糸が伸びることによりカウンターの表示との間にズレを生じる場合があります。	
船べり停止位置が違う。	巻き上げのテンションや糸の伸びの影響と思われます。水面での0セットを行なってください。また、入力可能な船べりセットは、1m～6mの範囲です。0m～1m未満のセットは安全のため1mに設定しています。	P.32～P.33 P.35～P.36
液晶表示はするがモーターが作動しない。	バッテリーの容量が十分かどうかご確認ください。 モーターが低速では作動するが、高速では作動しない場合もバッテリーの容量不足が考えられます。バッテリーを充電のうえ、ご確認ください。なお、充電しても正常に作動しない時は、バッテリーが古くなったことが考えられますので、新しいバッテリーと交換し、再度ご確認ください。	P.7
巻き上げ中にモーターが停止する。	電源コネクターのネジがしっかりと締め付けられているかご確認ください。 船電源の端子や、リールや電源コードのコネクター部分がサビしていると、通電不良を生じます。サビを落としてからもう一度ご確認ください。	P.7
メインスイッチを押し、指を離すとモーターが止まる。	船べり停止以後は、寸動動作でメインスイッチを押している間しかモーターは回りません。または、メインスイッチがチョイ巻きになっていないか確認してください。	P.6

こんなとき	操作	参照
いくら0セットを押しても水深が合わない。	<p>オマツリで電源コードを抜いた場合など、電源をOFFにしてシカケを手巻きで回収していませんか？その後電源をONすると、手巻きで巻いた分の糸巻量が計算されません。この状態で0セットを行った場合、再度初めから学習をやり直してください。（水深が合わない現象は、プラスの水深〔例えば50mなど〕で0セットを行うことで、水深を高切れで切れた糸巻量とリールが判断するため起こります。）</p> <p>まだ0セットを行っていない場合、電源OFFの状態ですべてシカケを下ろした後、電源ONにして巻き上げ、シカケが手元にある状態でマイナスの水深にします。その後、0セットを行えばOKです。この際、マイナスの水深のため電動巻き上げはスイッチを押しっぱなしにしますので、穂先の巻き込みによる破損に注意してください。</p>	<p>P.11 ~ P.27 P.32 ~ P.34 P.6</p>

以上の確認を行っても直らない場合は、お手数ですがお買上になった小売店にて、修理カードに故障内容をできるだけ詳しく書いていただき、シマノサービスセンターにお送りください。

ご使用前に必ずお読みください。

警告



電動リールを使用されますと微弱な電波が発せられ、補聴器、ペースメーカー等の医療機器が誤作動したりするなど影響を与える場合があります。
特に心臓ペースメーカーをご使用されている方が電動リールを使用されますと、動悸、目眩が起こる場合がございますので、本製品のご使用前に必ず当該各医用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。
糸をリードするレベルウィンドの所に指を近づけて、釣りをしないでください。
指をはさまれて、けがをするおそれがあります。
ハンドルとボディーの間に手をはさむと、けがをするおそれがあります。
フィッシングナビゲーションディスプレイの開閉時は指等をはさまないようにご注意ください。けがをするおそれがあります。



バッテリー、船電源の所定電圧（12ボルト）以外を使用しないで下さい。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが発熱し、手をやけどするおそれがあります。

注意



回転しているスプールには触れないで下さい。けがをするおそれがあります。



電動リールは分解・改造等はやしないでください。故障や事故につながる原因となります。

株式会社シマノ全国サービスネット

株式会社シマノ 北海道営業所

〒001-0034 札幌市北区北34条西10-6-21 TEL.(011)716-3301

株式会社シマノ 仙台営業所

〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町2-17-10 TEL.(022)232-4775

株式会社シマノ 埼玉営業所

〒362-0043 埼玉県上尾市西宮下3-194-1 TEL.(048)772-6662

株式会社シマノ 東京営業所

〒143-0013 東京都大田区大森南1-17-17 TEL.(03)3744-5656

株式会社シマノ 千葉営業所

〒284-0045 千葉県四街道市美しが丘1-30-11 TEL.(043)433-1780

株式会社シマノ 静岡営業所

〒410-0807 静岡県沼津市錦町674 TEL.(055)962-3983

株式会社シマノ 名古屋営業所

〒454-0012 名古屋市中川区尾頭橋2-6-21 TEL.(052)331-8666

株式会社シマノ 大阪営業所

〒590-8577 大阪府堺市老松町3-77 TEL.(072)223-3920

株式会社シマノ 岡山営業所

〒700-0941 岡山市青江6-6-18 TEL.(086)264-6100

株式会社シマノ 広島営業所

〒734-0005 広島市南区翠1-11-6 TEL.(082)255-8143

株式会社シマノ 四国営業所

〒768-0014 香川県観音寺市流岡町1496-1 TEL.(0875)23-2220

株式会社シマノ 九州営業所

〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜4-6 TEL.(0942)83-1515

株式会社シマノ 釣具事業部 本社：〒590-8577 大阪府堺市老松町3丁77番地

商品の性能、スペック、カタログ、イベントなどに関するお問い合わせ

フリーダイヤル ☎0120-861130(ハローイイサオ)受付時間:AM9:00~12:00・PM1:00~5:00(土・日・祝祭日除く)

釣具サービス課：〒592-8331 大阪府堺市築港新町1-5-15

商品の修理、パーツなどアフターサービスに関するお問い合わせ TEL.(072)243-2851 / FAX.(072)243-2860

シマノホームページ アドレスは <http://www.shimano.co.jp> です。

シマノならではのオリジナル情報を発信しています。また、新しくカタログのお申し込みの受付も開始いたしました。(総合カタログは除く)

Printed in Japan 026



この説明書は再生紙を使用しています。

SHIMANO